

令和5年度

(2023)

林 窓

【前半】

知的探究イノベーターの学び	2
3年間の学びの全体像	4
学習の指針	5
教育課程表	7
3年間の教科学習の構成	9
国語科	10
地理歴史科	11
公民科	12
数学科	14
理科	16
保健体育科	18
芸術科	19
外国語科	20
家庭科・情報科	21
教科・科目の学習指導計画	23
国語科	24
地理歴史科	39
公民科	57
数学科	68

東京都立三田高等学校

この冊子の使い方

- ・本冊子を年度初めの授業に必ず準備し、教科担当の先生からの説明を受けてください。
- ・普段は、自宅の勉強机に置き、予習・復習・定期考査の準備に利用してください。
- ・教科担当者が「年間授業計画」について、若干の修正を行ったり、担当者が変更となったりすることもあります。あらかじめ了承してください。

「林窓」の由来

東京都立三田高等学校は、九州の外様大名有馬家（久留米藩）上屋敷（注1）の敷地の一部に建っています。その歴代藩主の中に、江戸中期に活躍した有馬頼僮（1714-1783）という数学好きの殿様がいました。

彼は、藩邸に数学者を呼んで数学を学ぶとともに数学者を援助しました。そして、自らも一生懸命勉強した結果、一流の数学者となり、1769（明和6）年に『拾璣算法』という数学書を著しました。その著書の中で、彼は当時最高水準の高等数学のすべてを150問にまとめて解説するとともに、関孝和などの数学者達の業績を紹介しました。

今回、シラバスを作成するにあたり、学問を愛した久留米藩主有馬頼僮の号（注2）「林窓舎」にちなんで、シラバスの名前としました。

（注1）大名が江戸に持っていた邸宅のうち大名自身が居住した本邸のこと。

（注2）学者などが本名以外に使用する呼称。

元副校長 飯山昌幸

知的探究の学び

令和5年度は、令和2年度まで知的探究イノベーター推進事業の指定を受け、本校が他校に先駆けて取り組んできた探究的な学びを一層発展する年です。

AIの著しい進展の中で、日常生活が激変します。生活の質が変化するだけでなく、我々の思考の在り方そのものも変化を余儀なくされています。沢山の知識を蓄積し、それを迅速に活用することで「学力がある」と言われていた時代はすでに過去です。「良い大学に行けば、良い企業に就職できて、良い人生が送れる」、そんな時代も過去のものとなりました。自分はどうなりたいのか、そのために何を学ぶのか、必要となる資質は一生学び続ける力です。ビッグデータをフルに活用し、瞬時に検索し、答えを導く能力は、AIにはかないません。我々に必要な学力は、「覚えてきたことを再生する力」ではなく、「新しい価値を生み出す力」です。三田高校では、この力を「創造力」と呼びます。

これまで、三田高校が取り組んできた3つのプレゼンテーション、特に、課題研究を進化させた「探究と創造」の時間で、自らの課題を自らが設定し、主体的に調べ・試す探究活動を通して、自らが深く考えたことを自らの手法で表現する方法を学びます。つまり、「創造力」を培う学びです。

三田高校は、学問の土台となる基礎基本の学習を大切に、保健体育科・芸術科・家庭科・情報科を含め、まんべんなく全て教科の学習を大事にします。どの教科の学習でも、探究活動を重視します。「主体的・対話的で深い学び」を実践し、いわゆるアクティブラーニングを授業に取り入れています。生徒が生徒を教えるという授業にも挑戦しています。

高大接続改革の中で、高等学校の授業や大学の授業、そしてそれらをつなぐ大学入試が大きく変化しています。知的探究の学びは、新学習指導要領の目指すところの新しい時代に必要となる資質・能力「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」や「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の理念の上に立つ学習活動です。

新学習指導要領の実施に伴い、高等学校の学習の評価の在り方が変わります。絶対評価である「評定」の他に、目標に準拠した評価である観点別評価が導入されます。三田高校では、観点別に作問した定期考査、生徒による授業評価、Can-Doリスト、ルーブリック（評価）、授業中の相互評価、レポート評価、ポートフォリオ評価、発表活動時のパフォーマンス評価等を既に導入しています。生徒自らが、学習の中で自己変革・自己改善につながられる評価を取り入れています。

「探究学習の充実」で、主体的・対話的で深い学びを自ら実践します。観点別評価の導入で、自らの学びの姿勢を改善していくチャンスを得ます。この「林窓」を活用し、将来を見据えて、様々な学習改善を実践している三田高校の学びを、あなたも開始しましょう。そして、生徒自らが学び合う、活発な授業を展開していきましょう。

Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow.

The important thing is not to stop questioning.



Have Wings and Fly High!



— 教養・探究・立志 へ 世界へ —

<自律> <自学> <イノベーター(開拓者)>

新しい価値の創造

創造力 CREATIVITY

外部機関との連携

大学 企業 地域
国際機関(大使館等)
図書館 研究機関
NGO NPO

ユネスコスクール

SDGs
(国際社会の共通課題解決に向けた探究)
ESD
(持続可能な開発のための教育)

課題研究
RESEARCH

思考力・判断力
・表現力等

CRITICAL THINKING
JUDGEMENT
EXPRESSIVENESS

読書プレゼンテーション
ホームプロジェクト
プレゼンテーション
ポートフォリオ

探究

SELF-EXPLORATION

幅広い教育課程
長期休業中の講習

知識・技能

KNOWLEDGE
SKILLS

言語の4技能修得
第二外国語
情報処理

志
教養

AMBITION
WORLDLINESS

大学・研究機関の
フォーラム・セミナー・実験体験

姉妹校交流
留学希望生徒支援

チーム三田
コミュニケーション

協同・協働
パートナーシップ

主体的な学び・鍛える授業

3年間の学びの全体像

主体的・対話的で深い学びを目指して

「シラバス」とは、一般的には「年間授業計画」のことを意味します。教授者から学習者に対して、これから勉強する教科・科目の目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等をあらかじめ示したものです。この「林窓～シラバス～」から、三田高校の授業で、何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるかを理解してください。

三田高校の「三年間の学びの全体像」を示してあります。各教科が、三年間で皆さんにどんな力を身に付けてほしいか、そのためにどんな順番で何を学ぶのかということ、皆さん自身が理解して、毎年毎年の学びに見通しをもって、学習に臨んでください。

《 第一志望の進路実現にむけた三田高校の学習計画 》

	学習面	生活面	進路指導
3 年 生	○理科・社会を中心に 後半は問題演習で完成 ・学習の中心は、国語・数学・英語から理科・社会に移っている時期です。 ・夏休み以降は、問題演習で、実践力を養いましょう。	○規則正しい生活リズム ・いよいよ大学受験を強く意識する時期です。 ・心身ともに健康でなければ受験勉強に集中できません。	○第一志望への合格 ・志望する大学に合わせた学習をする時期です。 ・受験は団体戦です。仲間と励まし合って、学校での学びを大切にしましょう。
2 年 生	○国語・数学・英語の 基礎完成 ・上記の3教科は、2年生までに、必要な科目の学習の基礎が終了します。この学習で大学受験に立ち向かえます。 ・進路の幅を狭めないためにも、この時期も5教科の学習を継続します。	○メリハリのある 生活リズムを作る ・高校生活の最大の行事である修学旅行があり、行事や部活動の中心となって活躍するのが2年生です。 ・メリハリをつけ、切り替えを上手に、生活にリズムを持たせることが大切です。	○進路選択に向けた準備 ・将来就きたい職業や自らの適性を考え、具体的な志望校をいくつか絞っていく時期です。 ・4技能の力を試す英語検定に挑戦しましょう。
1 年 生	○苦手科目をつくらない ・高校生としての勉強法を固める時期です。 ・5教科まんべんなく学習しましょう。それが、進路の幅を狭めないポイントです。 ・苦手科目・学習を諦める科目をつくってはいけません。総合的な学力が求められています。	○規則正しい生活習慣の 確立 ・三田高校生として、品位ある学生生活の基本を確立します。 ・学年+1時間の家庭学習の時間を確保してください。	○職業や大学を知る ・将来に向けて視野を広げ、選択肢を多く持つために、情報収集をする時期です。 ・国際理解教育やキャリア教育の機会に、目的意識をもって参加しましょう。

学習の指針

高等学校での学習

中学校で、みなさんは成績でクラスの上位にいたと思います。それは、高校と比べて中学校の学習は、レベルがそれほど高くありませんので、定期考査の直前に短時間勉強すればある程度の点数がとれたからです。しかし高校ではそのような学習スタイルでは通用しません。

高校では、なにより自主的な学習態度が求められます。自主的な学習とは、日々の継続的な学習を自らの意志によってすることで身につくものです。

学力をつけるために

学力とは何か。いろいろとらえ方がありますが、ここでは物事を理解する力、問題を解決しようとする意欲ととらえてみましょう。どうしたら学力をつけられるでしょうか。

それには授業を大切にすることが一番です。高等学校で過ごす一日の大部分は、授業です。授業を活かすことが高校生活を充実させ、学力をつけることになるのです。従って、1時間1時間の授業を大切にすることが最も重要になってきます。

授業中心の学習とは

授業中心の勉強法とは、特に変わったことをすることではありません。平凡ですが、必ず予習をして学習内容をあらかじめ自分なりに消化をしてから授業に臨むことです。そして授業で学習したことはできるだけ早く復習することも大切です。予習→授業→復習を軸とした内容的にも時間的にも実のあるプランを立てて学習を進めてほしいところです。

授業では、教師の説明を一言漏らさず聞き、板書事項もただノートにまる写しにせず、授業を受けながら考え、分析し、まとめる活動が大切です。これが積極的な授業への参加ということです。このような学習を毎日毎日進めていくのは容易ではありません。意志を強く持って頑張してほしいものです。

自宅学習について

授業中心の学習を進めるためには、予習の時間を十分に確保することが大切になります。そうすると自ずと自宅での学習時間はどれくらい必要となってくるか割り出すことができます。もちろん予習には限りはありません。気になることをとことん調べようとすれば、時間がいくらあっても不足でしょうが、必ず、予習をして臨むようにしましょう。

学習計画の立て方

その日の気分によって、長時間勉強したり全く勉強しなかったりということはありませんか。また得意科目ばかり勉強したり、不得意科目には全く手を出さなかったりということも今までありませんでしたか。教科・科目は意外なところでつながっているものです。ある教科に偏った学習ばかりしていると知識が体系的に組み立てられないため、学習効果は著しく薄く、学習の積み重ねも行われないので成績の向上はおぼつかないことになります。教科全体の見通しを持って学習を進めるためには、自分なりの学習計画表が必要になっていきます。計画表ではいつまでに何をマスターしたらよいか、いつ何を復習したらよいかを記入し自己点検をしながら毎日の学習を進めてください。

自分に合った勉強方法を見つけよう

みなさんは、自分の体力、自分を取りまく学習環境、自分の性格等についてどの程度知っていますか。例えば一日のうち、どの時間帯に勉強すると集中できますか。そしてどのくらい学習を続けられますか。自分にあった勉強方法は自分の体験によってしかつかむことはできません。いろいろ試して一日も早く自分なりの学習方法を見つけ出してみましょう。

塾・予備校について

既に述べたように、高校での学習レベルは高く、しかも学年が進むにつれて難易度もどんどん上がっていくので、その予習・復習の時間を確保して自宅学習を充実させると、塾に行く時間を捻出するのは極めて困難になります。ですから、塾や予備校に行くことを最初から考える必要はありません。しかし、活用の仕方によっては塾・予備校も役立つことがあります。例えば、苦手科目の克服のために夏休みなどに短期集中講座を受けたり、模試を受けたりする場合があります。ただし、最初はあくまでも高校の授業にしっかりついていくことに重点をおいてください

最後に

私たちはなぜ日本語を操れるのでしょうか。これは幼児期にしっかりと母語を身につけたからです。このように為すべき時にきちんと為すべきことを行うことがとても重要です。どんなことにも段階があり、タイミングがあります。高校生活で基本的な学習習慣を身につけ、学力をつけることはこれからの人生を豊かに過ごすことの基礎となります。自分自身の知性を磨き、教養を高めるだけでなく、自ら、積極的に、思考し、判断し、表現することを心がけ、高校での学習を進めていきましょう。



教育課程表(3学年)

各教科 ・科目	学 年 類 型 必修・選択	標準 単位 数	3学年		
			必修	学校必修	自由選択
国 語	国 語 総 合	4			
	国 語 表 現	3			2(2)
	現 代 文 A	2			
	現 代 文 B	4		2(7)	
	古 典 A	2			2(2)
	古 典 B	4		4(5)	2(1)
地 理 歴 史	世 界 史 A	2			
	世 界 史 B	4		4(2)☆・2(2)★	2(1)
	日 本 史 A	2			
	日 本 史 B	4		4(2)☆・2(3)★	2(0)
	地 理 A	2			
	地 理 B	4		4(0)☆・2(0)★	2(1)
公 民	現 代 社 会	2	2(7)	2(0)★	
	倫 理	2			2(1)
	政 治 ・ 経 済	2			2(1)
数 学	数 学 I	3			
	数 学 II	4			
	数 学 III	5		6(3)△	
	数 学 A	2			
	数 学 B	2			
	数 学 活 用	2			
理 科	科 学 と 人 間 生 活	2			
	物 理 基 礎	2			
	物 理	4		4(1)▲	2(2)・4(1)
	化 学 基 礎	2			
	化 学	4		4(2)▲	4(1)
	生 物 基 礎	2			
	生 物	4		4(1)▲	2(1)・4(1)
	地 学 基 礎	2			
	地 学	4		4(0)▲	2(0)・4(0)
理 科 課 題 研 究	1				
保 健 体 育	体 育	7~8	2(12)	1(12)	
	保 健	2			
外 国 語	コミュニケーション英語基礎	2			
	コミュニケーション英語I	3			
	コミュニケーション英語II	4			
	コミュニケーション英語III	4		4(7)	
	英 語 表 現 I	2			
	英 語 表 現 II	4		2(11)	
英 語 会 話	2				
習熟度別授業 少人数指導授業			1. 3学年体育は少人数授業を行う(水泳の授業時はチームティーチングを行う)。 2. 英語表現IIは2クラス3展開の少人数授業を行う。		

各教科 ・科目	学 年 類 型 必修・選択	標準 単位 数	3学年		
			必修	学校必修	自由選択
家 庭	家 庭 基 礎	2			
	家 庭 総 合	4			
	生 活 デ ザ イ ン	4			
情 報	社 会 と 情 報	2	2(7)		
	情 報 の 科 学	2			
地 理 歴 史	江 戸 から 東 京 へ	1~2			
人 間 と 社 会	人 間 と 社 会	1			
国 語	漢 文 演 習	2			2(1)
数 学	数学標準演習(文)	2		2(1)★	
	数学演習(文)	4		4(1)☆	
	数学演習(理)	6		6(1)△	
	数学発展演習(理)	2			2(2)
	数学発展演習(文)	2			2(1)
	数学I A演習	2			2(1)
	数学II B演習	2			2(1)
理 科	物 理 基 礎 演 習	1			1(0)
	化 学 基 礎 演 習	1			1(1)
	生 物 基 礎 演 習	1			1(2)
	地 学 基 礎 演 習	1			1(1)
保 健 体 育	発 展 体 育	2			2(0)
音 楽	ソルフェージュ演習	2			2(1)
	音 楽 総 合	2			2(0)
外 国 語	英 語 発 展 演 習	2		2(1)★	2(1)
	英 語 標 準 演 習	2			2(1)
	ド イ ツ 語	2			
	フ ラ ン ス 語	2			
	中 国 語	2			
共通教科・科目単位数計			27~33		
専 門 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計					
総 合 的 な 探 究 の 時 間		3~6			
ホ ー ム ル ー ム 活 動			1		
生 徒 一 人 当 た り の 履 修 単 位 数 計			28~34		
備 考		1. 学校設定科目として、3学年に漢文演習・数学標準演習(文)・数学演習(文)・数学演習(理)・数学発展演習(理)・数学発展演習(文)・数学I A演習・数学II B演習・物理基礎演習・化学基礎演習・生物基礎演習・地学基礎演習・発展体育・ソルフェージュ演習・音楽総合・英語発展演習・英語標準演習を設置する。 2. 3学年文系の生徒は古典B・4単位を選択し、且つ☆、★よりそれぞれ1科目を選択する。3学年理系の生徒は△、▲よりそれぞれ1科目を選択する。 3. 3学年の自由選択科目は、2単位以上履修させる。			

教育課程表(1, 2学年)

各教科 ・科目	学 年 類 型 標準 単位数	1 学年			2 学年		
		必修	学校必修	自由選択	必修	学校必修	
国 語	現代の国語	2	2(9)				
	言語文化	2	3(9)				
	論理国語	4					
	文学国語	4					
	国語表現	4					
	古典探究	4				3(7)	
地 理 歴 史	地理総合	2			2(7)		
	地理探究	3					
	歴史総合	2	2(8)				
	日本史探究	3				4(3)◆	
公 民	世界史探究	3				4(2)◆	
	公共	2			2(7)		
数 学	倫理	2					
	政治・経済	2					
	数学Ⅰ	3	3(9)				
	数学Ⅱ	4				4(11)	
	数学Ⅲ	3					
	数学A	2		2(9)			
理 科	数学B	2				2(7)	
	数学C	2					
	科学と人間生活	2					
	物理基礎	2			3(3)○		
	物理	4					
	化学基礎	2	2(8)				
	化学	4				4(3)◆	
	生物基礎	2	2(8)				
保 健 体 育	生物	4					
	地学基礎	2			3(5)○		
芸 術	地学	4					
	体育	7~8	2(12)		2(12)		
	保健	2	1(8)		1(7)		
	音 楽	音楽Ⅰ	2	2(4)◇			
		音楽Ⅱ	2				
		音楽Ⅲ	2				
	書 道	美術Ⅰ	2	2(4)◇			
		美術Ⅱ	2				
		美術Ⅲ	2				
		工芸Ⅰ	2				
工芸Ⅱ		2					
工芸Ⅲ		2					
書道Ⅰ		2	2(4)◇				
外 国 語	書道Ⅱ	2					
	書道Ⅲ	2					
	英語コミュニケーションⅠ	3	3(8)				
	英語コミュニケーションⅡ	4				4(7)	
	英語コミュニケーションⅢ	4					
家 庭 情 報	論理・表現Ⅰ	2		2(8)1(16)			
	論理・表現Ⅱ	2			1(7)2(14)		
	論理・表現Ⅲ	2					
家 庭 情 報	家庭基礎	2	2(16)				
	家庭総合	4					
情 報	情報Ⅰ	2	2(8)				
	情報Ⅱ	2					

各教科 ・科目	学 年 類 型 標準 単位数	1 学年			2 学年	
		必修	学校必修	自由選択	必修	学校必修
国 語	現代文探究Ⅰ	2				2(7)
	現代文探究Ⅱ	2				
	古典探究・発展	4				
	現代文演習	2				
	古文演習	2				
	漢文演習	2				
	理系古典演習	2				
	英語発展演習	2				
	英語標準演習	2				
	ドイツ語	2			2(1)	
外 国 語	フランス語	2			2(1)	
	中国語	2			2(1)	
共通教科・科目単位数計			31~33			32
専門教科・科目単位数計						
総合的な探究の時間		3~6	2			1
ホームルーム活動			1			1
習熟度別授業 少人数指導授業		<p>1. 1学年 現代の国語、言語文化、数学Ⅰ、数学Aについて、帰国生学級取り出し授業を1クラス分行う。論理・表現Ⅰの1単位数分は、1クラス2展開の習熟度別授業を行う。体育は2クラス3展開の少人数授業を行う。(水泳の授業時はチームティーチングを行う)。家庭基礎は1クラス2展開の少人数授業を行う。</p> <p>2. 2学年 数学Ⅱにおいて2クラス3展開の習熟度別授業を実施する。体育は2クラス3展開の少人数授業を行う(水泳の授業時はチームティーチングを行う)。論理・表現Ⅱの2単位数分は1クラス2展開の少人数授業を行う。</p>				
備考		<p>1. 学校設定科目として、1学年にドイツ語・フランス語・中国語を設置する。</p> <p>2. 2学年では、○、◆からそれぞれ1科目ずつ選択する。</p> <p>3. 「人間と社会」は1学年「総合的な探究の時間」において代替する。</p>				

3年間の教科学習の構成

【国語科】 3年間の教科学習の構成

分野	現代文	古文	漢文
3年	講座名：現代文B（必修2） 講座名：現代文演習（自選2）	講座名：古典B（文必4） 講座名：古文演習（自選2） 講座名：理系古典演習（自選2）	講座名：古典B（文必4） 講座名：漢文演習（自選2） 講座名：理系古典演習（自選2）
	①文章の構造と段落相互の関係を理解し、文章全体を説明出来るレベルの読みをマスターする。 ②いかなる要求や条件でも適応した文章を書けるようにする。 ③教科書に出て来る重要語句を含め、重要語を使いこなせるようにする。 ④難関大学の過去問を解けるだけのスキルの熟達。	①古文の語彙を定着させる。300～500語。 ②古典文法事項（助動詞・助詞・敬語・副詞の呼応・和歌の修辞・語の識別）の完全な理解・活用。 ③古典社会の常識を自分で説明できるレベルでの理解。 ④難関大学の過去問を解けるだけのスキルの熟達。	①主要な句法と助字の完全理解。 ②白文をある程度訓読できるようにする。 ③中国文化を踏まえた漢文の読解・理解の完成。 ④難関大学の過去問を解けるだけのスキルの熟達。
2年	講座名：現代文探究 I（2）	講座名：古典探究（3）	講座名：古典探究（3）
	①段落相互の構造を理解した上で、全体を捉える読みが出来るようにする。 ②要求や条件に応じた文章を書けるようにする。 ③教科書に出て来る重要語句を中心に近代の文章を理解するための語彙を増やす。 ④常用漢字の正確な形・読み・意味をより完璧にマスターする。	①教科書で学習する範囲の単語は全て定着させる。古文単語集1冊分の単語理解を定着させる。 ②主要古典文法（助動詞・助詞・敬語）の習熟。 ③古典の舞台である社会や習俗への理解を深める。	①漢文読解の基本となる句法・助字の基本を定着させる。 ②漢文の構造を理解し、白文から意味がとれるようにする。 ③中国文化の特質を理解し、漢文作品の歴史的背景に習熟する。
1年	講座名：現代の国語(2) 言語文化（3）	講座名：言語文化（3）	講座名：言語文化（3）
	①段落構成を押さえ、全体を捉える読みが出来るようにする。 ②場合に応じた様々な文を書けるようにする。 ③教科書に出て来る重要語句を中心に語彙を増やす。 ④常用漢字の正確な形・読み・意味を身につける。	①教科書に出てきた主要単語を覚える。古文単語集の基本的な単語を覚える。 ②用言の活用を完璧にする。 ③主な助動詞を「意味・活用・接続」の3点でマスターする。	①漢文訓読の基本（返り点・書き下し文・再読文字等）を覚える。 ②漢文の構造を理解する。 ③漢詩の規則を理解する。 ④中国文化の特質を理解する。

【地理歴史科】 3年間の教科学習の構成

分野	歴史総合	世界史	地理	日本史
3年		講座名：世界史B(必選4) 講座名：世界史演習 (必選2, 自選2 同一内容)	講座名：地理B(文必4) 講座名：共通テスト地理 (自選2) 講座名： 地理基礎演習(自選2)	講座名：日本史B(文必4) 講座名：日本史B演習 (文必2, 自選2 同一内容)
		①2年生で未履修の分野について、近現代史を中心に学習します。 ②大学入試問題の過去の問題を中心に、問題演習を実施します。	①系統的分野/地誌的分野の両面から、地理学習の完全理解を目指す。 ②グラフや表などの統計資料を正確に読み取ることができるようにする。 ③共通テストや難関大学の過去問を解く学力を身につける。	①2年次の続きを上記日本史B演習で学んでいきます。 ②上記文必では、古代史から中世史を学んでいきます。 ③近世史については、夏休みの講習で先取りして学んでいきます。
2年		講座名：世界史探究(必選4)	講座名：地理総合(必修2)	講座名：日本史探究(必選4)
		①先史の時代・古代から中世まで世界の歴史を順に学んでいきます。 ②大学受験を意識した詳細な内容も扱います。	地理的な見方・考え方を活用して、以下のテーマについて課題を追求したり解決する活動を行い学習する。 ①地図や地理情報システムで捉える現代世界 ②国際理解と国際協力 ③持続可能な地域づくりと私たち	①古代から近世のはじめまでを学んでいきます。 ②定期考査の直前に大学入試問題を配布して、自学自習できるようにし、大学受験を意識した内容を学んでいきます。
1年	講座名：歴史総合(必修2)			
	テーマに沿って、世界史と日本史を関連付けて、史資料読み取りや協働学習を通じて学びます。 ①近代化と私たち ②国際秩序の変化や大衆化と私たち ③グローバル化と私たち			

【公民科】 3年間の教科学習の構成（旧課程）

分野	現代社会	倫理	政治・経済
3年	講座名：現代社会（必修2）	講座名：倫理（自選2）	講座名：政治・経済（自選2）
	<p>① 現代の諸課題への考察 ⇒現代社会が抱える諸課題について、話し合いました主張を文章にまとめたりするなど表現や発表の機会を設け考察を深めます。</p> <p>② 現代の社会と人間 ⇒現代社会と青年の生き方などについて哲学・宗教・科学・芸術など幅広い分野から考えていきます。</p> <p>③ 民主政治について ⇒法の支配と個人の尊重また日本国憲法の基本原理などについて、具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p> <p>④ 経済のあり方について ⇒現代経済のしくみや特徴について具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p>	<p>① 青年期の課題と自己形成 ⇒フロイトの深層心理学や様々な学派の心理学を参考に考えていきます。</p> <p>② 人間としての自覚 ⇒キリスト教や仏教などの源流思想を手掛かりに人間としてのあり方について考察を深めます。</p> <p>③ 日本人としての自覚 ⇒日本の伝統思想を手掛かりに日本人のあり方について理解を深めます。また幕末維新以後の西欧思想と日本人のかかわりについても考察します。</p> <p>④ 現代に生きる人間の倫理 ⇒現代の課題について主に西欧近現代の思想を手掛かりに考えていきます。</p> <p>⑤ 共通テスト倫理、倫政の試験に対応できる基礎力を養います。</p>	<p>① 現代の政治 ⇒民主政治の基本原則や日本国憲法の基本原則など理論的な理解に加え、戦後政治の道のりなど歴史的な歩みについても学習していきます。</p> <p>② 現代の経済 ⇒現代の経済社会を動かしている諸原則諸要因について理論的考察を深めていきます。また戦後日本の経済について歴史的にも理解を深めます。</p> <p>③ 国際政治 ⇒現代の国際政治について歴史的歩みを振り返りながら学習します。平和や人権についての国際社会の努力を学びます。</p> <p>④ 国際経済 ⇒世界経済のあり方について理解を深めるとともにその中における日本の役割についても学習します。</p> <p>⑤ 共通テスト政治・経済、倫政の試験に対応できる基礎力を養います。</p>

【公民科】 3年間の教科学習の構成（新課程）

分野	公共	倫理	政治・経済
	講座名：公共（必修2）	講座名：倫理（必修2） (R6年度新課程のため改定予定)	講座名：政治・経済（必修2） (R6年度新課程のため改定予定)
3年	<p>① 公共的な空間をつくる私たち ⇒現代社会と青年の生き方などについて哲学・宗教・科学・芸術など幅広い分野から考えていきます。</p> <p>② 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ⇒現代社会が抱える諸課題について、話し合いまた主張を文章にまとめたりするなど表現や発表の機会を設け考察を深めます。</p> <p>③ 公共的な空間における基本原理 ⇒法の支配と個人の尊重また日本国憲法の基本原理などについて、具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p> <p>④ 現代の民主政治と政治参加の意義 ⇒現代政治のしくみや特徴について具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p> <p>⑤ 現代の経済社会と経済活動のあり方 ⇒現代経済のしくみや特徴について具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p> <p>⑥ 国際社会の動向と日本の役割 ⇒国際政治および国際経済のしくみや特徴について具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p>	<p>① 青年期の課題と自己形成 ⇒フロイトの深層心理学や様々な学派の心理学を参考に考えていきます。</p> <p>② 人間としての自覚 ⇒キリスト教や仏教などの源流思想を手掛かりに人間としてのあり方について考察を深めます。</p> <p>③ 日本人としての自覚 ⇒日本の伝統思想を手掛かりに日本人のあり方について理解を深めます。また幕末維新以後の西欧思想と日本人のかかわりについても考察します。</p> <p>④ 現代に生きる人間の倫理 ⇒現代の課題について主に西欧近現代の思想を手掛かりに考えていきます。</p> <p>⑤ 共通テスト倫理、倫政の試験に対応できる基礎力を養います。</p>	<p>① 現代の政治 ⇒民主政治の基本原則や日本国憲法の基本原則など理論的な理解に加え、戦後政治の道のりなど歴史的な歩みについても学習していきます。</p> <p>② 現代の経済 ⇒現代の経済社会を動かしている諸原則諸要因について理論的考察を深めていきます。また戦後日本の経済について歴史的にも理解を深めます。</p> <p>③ 国際政治 ⇒現代の国際政治について歴史的歩みを振り返りながら学習します。平和や人権についての国際社会の努力を学びます。</p> <p>④ 国際経済 ⇒世界経済のあり方について理解を深めるとともにその中における日本の役割についても学習します。</p> <p>⑤ 共通テスト政治・経済、倫政の試験に対応できる基礎力を養います。</p>

【数学科】 3年間の数科学習の構成（数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

分野	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ
3年	講座名：数学標準演習（文）（文必2） 講座名：数学演習（文）（文必4） 講座名：数学演習（理）（理必6） 講座名：数学発展演習（文）（自選2） 講座名：数学ⅠA演習（自選2） 講座名：数学発展演習（理）（自選2）	講座名：数学標準演習（文）（文必2） 講座名：数学演習（文）（文必4） 講座名：数学演習（理）（理必6） 講座名：数学発展演習（文）（自選2） 講座名：数学ⅡB演習（自選2） 講座名：数学発展演習（理）（自選2）	講座名：数学Ⅲ（理必6） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題、章末問題を理解し、解ける。 ②問題演習を通じて公式・定理の深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ③試行錯誤により、問題文から適用できる公式・定理を導き出せるようにする。 ④数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ⑤志望校の過去問題を解けるまで熟達する。
	①問題演習が中心となる。その演習を通じて、公式・定理のさらに深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ②問題文から適用できる公式・定理を早く導き出せるようにする。 ③数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ④志望校の過去問題を解けるまで熟達する。	①問題演習が中心となる。その演習を通じて、公式・定理のさらに深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ②問題文から適用できる公式・定理を早く導き出せるようにする。 ③数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ④志望校の過去問題を解けるまで熟達する。	
2年		講座名：数学Ⅱ（必修4） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題、を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題を解ける。 ③数学的思考法を身につける技（注）を積極的に取り組む。	
1年	講座名：数学Ⅰ（必修3） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題レベルに対応できる。 ③数学的思考法を身につける技（注）を受け入れる。		

（注）数学的思考法を身につける技は以下の通り。
 数学の問題を解いて困ったら、次の順番で考える。

- | |
|--|
| ①条件を図にかいて考える。
②小さな具体例で実験して考える。
③問題文を読み直す。
④2乗する。
⑤必要条件で考える。
⑥逃げる。（解説を見る等） |
|--|

【数学科】 3年間の数科学習の構成（数学A・B）

分野	数学A	数学B
3年	講座名：数学標準演習（文）（文必2） 講座名：数学演習（文）（文必4） 講座名：数学演習（理）（理必6） 講座名：数学発展演習（文）（自選2） 講座名：数学ⅠA演習（自選2） 講座名：数学発展演習（理）（自選2）	講座名：数学標準演習（文）（文必2） 講座名：数学演習（文）（文必4） 講座名：数学演習（理）（理必6） 講座名：数学発展演習（文）自選2） 講座名：数学ⅡB演習（自選2） 講座名：数学発展演習（理）（自選2）
	①問題演習が中心となる。その演習を通じて、公式・定理のさらに深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ②問題文から適用できる公式・定理を早く導き出せるようにする。 ③数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ④志望校の過去問題を解けるまで熟達する。	①問題演習が中心となる。その演習を通じて、公式・定理のさらに深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ②問題文から適用できる公式・定理を早く導き出せるようにする。 ③数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ④志望校の過去問題を解けるまで熟達する。
2年		講座名：数学B（必修2）
		①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題を解ける。 ③数学的思考法を身につける技（注）を積極的に取り組む。
1年	講座名：数学A（必修2）	
	①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題レベルに対応できる。 ③数学的思考法を身につける技（注）を受け入れる。	

（注） 数学的思考法を身につける技は以下の通り。

数学の問題を解いて困ったら、次の順番で考える。

- | |
|--|
| ①条件を図にかいて考える。
②小さな具体例で実験して考える。
③問題文を読み直す。
④2乗する。
⑤必要条件で考える。
⑥逃げる。（解説を見る等） |
|--|

【理科】 3年間の教科学習の構成（物理・化学）

分野	物理	化学
3年	講座名：物理基礎演習（自選1） 講座名：物理（理必4） 講座名：物理（自選4） 講座名：物理演習（自選2）	講座名：化学基礎演習（自選1） 講座名：化学（理必4） 講座名：化学（自選4）
	「物理基礎演習」 ・共通テスト物理基礎の模擬演習と解説を行う。 「物理」「物理演習」 ・慣性力、円運動、万有引力、単振動などの力学。電界と電位、コンデンサー、磁界、電磁誘導、交流などの電磁気学。及び熱力学、原子物理について、問題演習を常に取り入れ、授業中に問題に当たっていくことによって、物理学の法則現象を深く理解できるよう学習する。	「化学基礎演習」 ・演習では共通テストの模擬演習と解説を行う。 「化学」 ・反応速度、化学平衡の仕組みを理解し、速度定数や平衡定数を用いた量計算ができる。 ・高分子の構造、性質、製法を理解する。 ・無機物質の性質や代表的な製法・利用法を理解し、身近な物質を化学的な視野で捉えられる。 ・入試に向けた総合的な問題が解ける。
2年	講座名：物理基礎（必選3）	講座名：化学（必選3）
	・運動の3法則について観察や実験を通して理解する。 ・運動方程式の立て方について学習し、斜面上の運動、連結した物体の運動など、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・力学的エネルギーの保存について理解する。 ・正弦波と波、振幅、波長、周期、振動数、媒質の振動など、波の要素について学習する。 ・重ねあわせの原理、波の独立性、定常波、波の反射、固定端反射、自由端反射について学習する。 ・摩擦電気を通して電気の原因となる電荷を学習し、静電気力、電流や電圧、オームの法則などについて理解する。	・物質の状態やボイルシャルルの法則、状態方程式、分圧を理解し、計算ができる。 ・溶液の性質について学び、溶解度、浸透圧、凝固点降下、沸点上昇などの計算ができる。 ・反応熱の仕組みを理解し熱化学方程式が利用できる。 ・電池・電気分解の仕組みを理解し量計算ができる。 ・有機物の構造、性質を理解し、分子構造を決定できる。
1年		講座名：化学基礎（必修2）
		・化学の基礎事項と、実験や観察を通じた探究する能力や態度を身につける。 ・原子、分子、イオンなどの基本粒子の構造と、化学結合の仕組みから、物質の性質や特徴を説明できるようになる。 ・モル概念・濃度計算を身につけ、化学の反応量を計算できるようになる。 ・中和反応や酸化還元反応などを、反応に共通の原理から捉えられるようになる。

【理科】 3年間の教科学習の構成（生物・地学）

分野	生物	地学
3年	講座名：生物基礎演習（自選1） 講座名：生物（理必4） 講座名：生物（自選4） 講座名：生物演習（自選2）	講座名：地学基礎演習（自選1） 講座名：地学（自選4）
	「生物基礎演習」 ・共通テスト対策を中心に問題演習を行う。 「生物」 ・生命現象と物質、遺伝子、生殖と発生、環境応答、生態系、進化系統の各分野について、生命現象の概念や原理、法則について理解する。 ・様々な実験データをもとに、学習した知識、概念を用いて生命現象について考察することができる。 ・入試に向けた総合的な問題が解ける。 「生物演習」 ・生物の分野について大学入試の過去問題を中心に問題演習を行う。	「地学基礎演習」 ・共通テストに向けて、過去問を中心に、問題演習と解説を行う。 「地学」 ・地学は、2年で学んだ地学基礎をベースに、地球物理学、地質学、気象学、天文学に関する概念や法則性について理解する。ただし、例年希望者が少なく開講できないことが多い。
2年		講座名：地学基礎（必選3）
		・地震・火山・地層・地球の歴史・大気と海洋・天文などの身近な自然現象について、その基本的な概念や原理・法則を理解する。
1年	講座名：生物基礎（必修2）	
	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解する。 ・細胞、代謝、遺伝子、恒常性、生態系など生物学を階層ごとに学び、生物の共通性と多様性について理解する。 ・実験や観察を通して生物学的に探究する能力や態度をもつ。集団の中で協力して課題を解決することができる。 ・光学顕微鏡、マイクロメーター、スケッチ等の生物実験における基本的な器具の使用方法や実験技能を習得し、記録に残すことができる。	

【保健体育科】 3年間の教科学習の構成

分野	保健	体育
3年		講座名：体育（必修3）
		<ul style="list-style-type: none"> ① 各種目を通じて基礎的な体力を養う。 ② 各種目に応じた運動技能を養うとともにその種目の特性を理解し工夫して取り組める態度を養う。 ③ 安全に配慮しルールを理解して公平な態度で審判を行える力を養う。 ④ 生涯スポーツに繋がるよう自分たちで工夫し協力しながら企画・運営を出来る力を養う。
2年	講座名：保健（必修1）	講座名：体育（必修2）
	<ul style="list-style-type: none"> ① 生涯の各段階における健康課題を理解し、場面に応じた適切な意思決定と行動選択が出来る力を養う。 ② 社会生活における健康の保持増進のためには、環境・食品・労働にかかわる活動や対策が重要であることを理解し、問題意識をもって取り組める力を養う。 ③ オリンピック・パラリンピックのもつ役割や意義を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 運動の効果的な学習の仕方について理解する。 ② 各種目を通じて基本的な体力を養う。 ③ 各種目に応じた運動技能を養うとともにその種目の特性を理解し工夫して取り組める態度を養う。 ④ ルールを理解し公平な態度で審判を行える力を養う。
1年	講座名：保健（必修1）	講座名：体育（必修2）
	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本の疾病構造について理解するとともにヘルスプロモーションの考え方を生かし自らの健康を適切に管理することの重要性について理解する。 ② 生活習慣病に関する知識を深め予防に向けた実践が大切であることを理解する。 ③ 精神と身体は密接な関連があることを理解し、自分なりのストレス対処法を身につけることが精神の健康のために重要であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 運動の効果的な学習の仕方について理解する。 ② 各種目を通じて基本的な体力を養う。 ③ 各種目に応じた運動技能を養うとともにその種目の特性を理解し工夫して取り組める態度を養う。 ④ ルールを理解し公平な態度で審判を行える力を養う。



【芸術科】 3年間の教科学習の構成

分野	音楽	美術	書道
3年	講座名：ソルフェージュ演習（自選2）		
	<p>①大学受験に必要なソルフェージュ（旋律・和声聴音や新曲視唱など）の課題に積極的に取り組む。必要に応じ、コールユーブンゲンやコンコーネを用いて、階名唱や母音唱の能力を高める。</p> <p>②大学受験に必要な音楽理論の学習にも積極的に取り組む。</p>		
1年	講座名：音楽Ⅰ（必選2）	講座名：美術Ⅰ（必選2）	講座名：書道Ⅰ（必選2）
	<p>①表現を工夫しながら、日本語や外国語（英語・イタリア語・ドイツ語）による様々な歌曲が歌えるようになる。また他声部との調和を感じ取りながら、混声四部の合唱曲が歌えるようになる。</p> <p>②箏の基本的な演奏法を身につけ、伝統文化を味わいながら、箏曲の演奏技能を習得する。</p> <p>③リズム読みやリズム打ちを通して、読譜力やリズム感覚を身につける。</p>	<p>①観察表現した手等のモチーフをテーマに画面に配置し、配色計画に基づいて平面構成を制作する。</p> <p>②時代・民族・風土による表現の相違や共通性と美術文化を考えながら、ポスターを制作する。</p> <p>③「身近な生活から」をテーマに、人物や風景をアイデアスケッチし、切り絵で表現する。</p>	<p>①古典の字形や線質の特性を理解し、その用筆・運筆の技法を表現できるようにする。</p> <p>②形式、用具・用材、構成などを工夫し、自分の感性を表現できるようにする。</p> <p>③文字及び書の伝統と文化について、幅広く理解する。</p>

【外国語科】 3年間の教科学習の構成 (CAN-DO リスト)

	Listening	Speaking	Reading	Writing
3年	<p>○まとまった長さの会話・スピーチ・説明などをメモをとりながら聞き、内容が多少複雑でも概要を理解することができる。</p>	<p><発表></p> <p>○社会的な問題についてプレゼンテーションの形式で発表することができる。</p> <p><やりとり></p> <p>○様々なテーマについて、即興型のディベートができる。</p> <p>○社会的な話題について情報や考え、気持ちなどを伝え合うことができる。</p>	<p>○コミュニケーション英語Ⅲの教科書本文を初見で読んで、概要を理解することができる。</p> <p>○多読用図書の外国語学習者用に書かれた本を、辞書を使わず内容を推察しながら読むことができる。</p>	<p>○授業で読んだ文章の要点・感想・意見をわかりやすく流れのある文章で書くことができる。</p> <p>○既習の文法事項や語彙を活用して大学入試レベルの英作文を書くことができる。</p> <p>○社会的な話題についてパラグラフやエッセイ形式で自分の考えを書くことができる。</p>
2年	<p>○まとまった長さの会話・スピーチ・説明などをメモをとりながら聞き、概要を理解することができる。</p> <p>○教科書の内容や活動のやり方を説明する外国人講師の自然なスピードの英語を理解することができる。</p> <p>○ネイティブスピーカーの英語ばかりでなく、海外修学旅行や国際理解シンポジウムなどで話される様々な国籍の方が話す英語を聞いて理解することができる。</p>	<p><発表></p> <p>○海外学校との交流で、日本文化を英語で紹介・説明することができる。</p> <p>○修学旅行での出来事を新聞やポスターなどを用いてプレゼンテーション形式で発表することができる。</p> <p><やりとり></p> <p>○準備をすればディベートができる。</p> <p>○日常的な話題について基本的な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを伝え合うことができる。</p>	<p>○英語コミュニケーションⅡの教科書本文を初見で読んで、概要を理解することができる。</p> <p>○多読用図書を、辞書を使わず内容を推察しながら読むことができる。</p>	<p>○授業で読んだ文章の要点・感想・意見をわかりやすく書くことができる。</p> <p>○主に論理・表現Ⅱで学んだ文法項目や、単語帳などで学んだ語彙を使って、英文を書くことができる。</p> <p>○ディベートにむけて、身近な話題についてスピーチが書ける。</p> <p>○修学旅行での出来事を新聞やポスターなどの形式で書くことができる。</p>
1年	<p>○外国人講師の英語の説明を理解することができる。</p> <p>○施設や乗り物などの簡単なアナウンスを聞いて理解することができる。</p>	<p><発表></p> <p>○教科書などの内容・読んだ感想・意見を、その場で発表することができる。</p> <p>○日常的な話題に関して、適切な理由や根拠とともに簡単な英語でディベートやディスカッションができる。</p> <p>○世界で起こっている問題について準備をすればスピーチができる。</p> <p><やりとり></p> <p>○身近な内容についてネイティブの先生や友人と短いやり取りができる。</p> <p>○自分や友人のプレゼンテーションやスピーチについて質問したり答えたりすることができる。</p>	<p>○英語コミュニケーションⅠの教科書本文を初見で読んで、概要を理解することができる。</p> <p>○多読用図書の英語を母語とする子ども向けに書かれた本を、辞書を使わず内容を推察しながら読むことができる。</p>	<p>○授業で読んだ文章の要点・感想・意見を論理性に注意して書くことができる。</p> <p>○主に論理・表現Ⅰで学んだ文法項目や、単語帳などで学んだ語彙を使って、正しい英文を書くことができる。</p> <p>○身の回りの出来事について「まとまった英文を「論理性に注意して」「理由・根拠とともに」書くことができる。</p>

【家庭科】教科学習の構成

分野	家庭基礎	
2年	講座名：家庭基礎（必修2） 高校家庭科で学ぶ全12領域の内容を8領域にまとめ、各領域で探究的な学習を用いながら展開していく。	
	【衣生活と健康】	衣生活に関する知識と技能を習得すると共に快適な衣生活を営める力を身につける。
	【住生活と住環境】	住生活に必要な知識を習得し適切な住居の計画・管理ができると共に防災や環境に配慮した住生活を工夫する。
	【高齢期の生活と福祉】 【共生社会と福祉】	高齢期の心身の変化を踏まえ、社会保障の成り立ちや現状の課題について理解すると共に高齢期の特徴と社会環境を踏まえ家族や地域社会の果たす重要性を理解する。
	【子供の生活と保育】	子供の心身の発達と特徴について理解を深める。 親になることの責任と重要性を理解し、社会の果たす重要性について考察する。
	【食生活と健康】	食生活に関する知識と技能を習得すると共に健康な食生活を営める力を身につける。
	【青年期の自立と家族・家庭】 【生涯の生活設計】	時代による「家族」の変化を理解する。 多様な生き方を学び、主体的に生活を設計できる力を身につける。
	【生活における経済の計画】 【消費行動と意思決定】 【持続可能なライフスタイルと環境】	家計と社会経済の関連を理解し生涯を見通した管理の重要性を理解する。 消費者の権利と責任について理解を深め、生活情報を収集・管理する力を身につける。 持続可能な社会に向けて主体的に行動できる力を身につける。
	【ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動】	家庭生活を改善しようとする態度を身につけると共に探究的な学びを実践する。ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解する。

【情報科】教科学習の構成

分野	理論	実習
3年・1年	3年・・・講座名：社会と情報（共通2） 1年・・・講座名：情報Ⅰ（共通2）	3年・・・講座名：社会と情報（共通2） 1年・・・講座名：情報Ⅰ（共通2）
	① 情報とは何か. 日常生活にどのような影響を与えるのか ② 情報社会がもたらした生活や社会の変化の個人の責任について ③ 被害者にならないために, 情報社会の影の部分について ④ 個人情報について ⑤ コンピュータネットワークの仕組みについて ⑥ 情報セキュリティにおける個人や組織の安全対策 ⑦ 知的財産権の概要と産業財産権 ⑧ 著作権およびその利用 ⑨ デジタル情報の特徴 ⑩ アナログからデジタル化 ⑪ デジタル化の各種計算	① コミュニケーションには様々な手段があり, 目的や場面に応じて使い分ける手法s ② 問題解決の各種手法 ③ 情報の整理と管理 ④ 分析のための工夫 ⑤ 分析の実際 ⑥ 問題解決の実際 ⑦ プログラミング実習（1年生）

教科・科目の学習指導計画

国語科

国語科学習指導計画

教科の学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

評価の観点（第三学年を掲載。第一学年及び第二学年は後のページに掲載）

観点	評価の観点	評価方法
関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ることができる。	学習活動への取り組み 提出物の状況
話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めていくことができる。	学習活動への取り組み
書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めていくことができる	プリント、ノート 小論文、レポート
読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させることができる。	定期考査 ノート、プリント、 レポート
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけることができる。	定期考査 小テスト

国語を学ぶにあたって

○国語の力とは

国語の力は、全ての教科での「学力」の基礎である。国語ができるようになることとは、言葉によって世界の構造に理解を深め、言葉によって自分の心の世界を広く構築していくことである。教科書の様々な文章に触れ、世界を広げよう。

○授業の受け方

先生の説明を聞きながら、その場で理解して覚えることが、最も効率の良い時間の使い方と言える。必要なことはすべてノートに書こう。ただし必要なこととは、「先生が黒板に書いたこと」のみではない。授業を聴いて自分なりに「大事だ」と思ったこともノートにとろう。授業を受け、自分なりに復習してすべてが理解できた時点で自然とノートが完成していることを目指そう。そのノートが最大の参考書となる。

○自宅学習

どの科目にも共通していえることは、予習・復習を必ずすることである。予習・復習は、自分で取り組むことが肝心である。重要と思われる箇所に線を引いたり、知らない語句の意味を辞典で調べて書いたりする積み重ねが大事である。

○読書のすすめ

本を読もう。一人の人間が体験できることには限りがある。他者の知識や経験を書籍から学ぶことは生きていく上で大切な知恵である。また、将来、どのような学問を専攻するにしても、文献や資料を精読することが基本となる。読書習慣のある人間はどんな分野でも能力を発揮することができる。何よりも読書は楽しい。自分の知識が増えるのも楽しい。まずは好きな本から初めて、色々なジャンルの本に挑戦してみよう。

○各科目の概要及び使用教科書等

科目	学年	履修	単位	使用教科書 (出版社)	主要補助教材 (出版社)
現代の国語	1	共通	2	現代の国語 (筑摩書房)	新国語総合ガイド五訂版 (京都書房) 重要漢字コレクション 2800 改訂版 (啓隆社) 読解評論文キーワード改訂版 (筑摩書房) ちくま評論入門二訂版 (筑摩書房) 現代文長文記述問題集1 読解力習得編改訂版 (いっずな書店)
言語文化	1	共通	3	精選言語文化 (三省堂)	読解をたいせつにする体系古典文法九訂版 (数研出版) 読解をたいせつにする体系古典文法ノート四訂版 (数研出版) Key&Point 古文単語 330 三訂版 (いっずな書店) 読んで見て覚える古文攻略マストアイテム 76 (桐原書店) 基礎から読解へ漢文必携五訂版 (桐原書店) L T 古文 1 (浜島書店) 文法メソッド 1・2 (浜島書店) ルート漢文 1 (啓隆社)
現代文探究 I	2	共通	2	論理国語・文学国語 (数研出版)	入試頻出漢字 TOP2500 (いっずな書店) 現代文長文記述問題集読解力養成編 2 (いっずな書店)
古典探究	2	共通	3	古典探究 (三省堂)	L T 古文 2 (浜島書店) ルート漢文 2 (啓隆社)
現代文 B	3	共通	2	精選現代文 B (筑摩書房)	国語頻出問題 1200 四訂版 (いっずな書店) 三訂版プロGRESS現代文総演習完成編 (いっずな書店)
古典 B	3	必選	4	高等学校古典 B (第一学習社)	完成古典 (古文・漢文) 大学入学共通テスト対策 改訂版 (尚文出版) 国語頻出問題 1200 四訂版 (いっずな書店)
現代文演習	3	自選	2	国語表現 (教育出版)	論読 現代文 3 (浜島書店)
古文演習	3	自選	2	古典 A 物語・史伝選 (筑摩書房)	改訂版プロGRESS古文総演習発展編 (いっずな書店)
漢文演習	3	自選	2		改訂版プロGRESS漢文総演習発展編 (いっずな書店)
理系古典演習	3	自選	2	高等学校古典 B (第一学習社)	(改訂版) 共通テスト対策 古典完答 2 2 (尚文出版)

現代の国語

年間授業計画

科目	現代の国語	履修	必修	学年	1	単位	2単位
講座名	現代の国語	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	行動観察、小テスト、定期考査 <ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	行動観察、ノート、定期考査 <ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	行動観察、振り返りシート、小テスト、提出物の取組 <ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 提出物の内容を評価する。 				

現代の国語の学び方

		学習の単元	学習の内容
一学期	月	話す・聞く	○いろいろな出来事をひとつのことばで表現してみよう 「境目」(川上弘美) ○具体例や比喻から抽象的な考えを読み取ろう 「ことばとは何か」(内田樹) ○書く力を伸ばそう ・「贅沢の条件」(山田登世子)〈二項対立〉 ・「瓦を解かないこと」(堀江敏幸)〈ことばのもつイメージ〉 【言語活動】上記の2つの文章の〈課題〉に基づき、「羅生門」(芥川龍之介)のブックレビューを書く。
	4	読む	
	5	書く	
	6		
	時間	7	
二学期	9	読む	○エピソードを効果的に使おう 「マルジャーナの知恵」(岩井克人) ○議論するための姿勢を育もう 「〈私〉時代のデモクラシー」(宇野重規) ○評論文の要約をしてみよう 「魔術化する科学技術」(若林幹夫) ○話す・聞く力を伸ばそう ・「ポスト真実時代のジャーナリズム」(国谷裕子)〈他の言葉を見つめる〉 ・「会話と対話」(長田弘)〈異なる立場の人と話し合ってみよう〉 ・「記憶する体」(伊藤亜紗)〈他者の言葉に耳を傾ける〉 【言語活動】上記の3つの文章の〈課題〉に基づき、「夢十夜」(夏目漱石)について伝え合う
	10	読む	
	11	読む	
	12	話す・聞く	
	時間		
三学期	1	読む	○ことばの意味を吟味しよう 「開かれた文化」(岡真理) ○抽象的な概念を理解しよう 「身体、この遠きもの」(鷺田清一) ○書く力を伸ばそう ・「来るべき民主主義」(國分功一郎)〈他者の言葉を踏まえて論じる〉 ・「主体という物語」(小坂井敏晶)〈自説を支える根拠を示す〉 【言語活動】上記の2つの文章の〈課題〉に基づき、詩歌を論じる
	2	読む	
		書く	
	時間		
講習			

現代の国語の目標は、日本語を読み、日本語を書き、日本語を聞き、日本語を話すことを通して、自分の視野を広げ、新しい認識を獲得することである。これらの諸活動は、まず、文章を読むことから始まる。常に問いを持ちながら本文と向き合い、筆者の伝えたいこと(問題意識)や、論の構造をつかむことをまず目指したい。

授業においては、ただ板書を写すだけといった受け身の姿勢は許容されない。新たな認識の獲得を目指して、常に自分の頭で考え続けようとする姿勢が求められる。必要なところはすべてノートに書き、ペアやグループにおける意見交換、クラス内での発表等の活動にも意欲的に取り組むべきである。

また、試験においては、出題者の意図を読み取ることが求められる。出題者が、何をどのように答えさせようとしているのかを見抜く力を身に付けたい。

最後に、学ぶ意義や目的を常に問い、試行錯誤のある学びをしてほしい。思想なき学びに意味はない。

言語文化

年間授業計画

科目	言語文化	履修	必修	学年	1	単位	3単位
講座名	言語文化	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	行動観察、小テスト、定期考査 ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、ノート、定期考査 ・学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、振り返りシート、小テスト、提出物の取組 ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・提出物の内容を評価する。				

言語文化の学び方

		学習の単元	学習の内容	
一 学 期	月	古文入門〈古文〉	児のそら寝（宇治拾遺物語） 絵仏師良秀（宇治拾遺物語）	
	4	漢文入門〈漢文〉	漢文の基本構造と訓読	
	5	随筆〈古文〉	徒然草（ある人、弓射ることを習ふに・丹波に出雲といふ所あり）	
	6	故事成語〈漢文〉	借虎威（戦国策） 推敲（唐詩紀事）	
	時間	7	詩、短歌〈現代文〉	【言語活動】短歌を詠む
	二 学 期	9	物語〈古文〉	芥川・東下り（伊勢物語）
		10	史話〈漢文〉	先從隗始 臥薪嘗胆
11		日記〈古文〉	門出・帰京（土佐日記）	
時間		12	和歌〈古文〉 漢詩〈漢文〉	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 四季・望郷・友情 【言語活動】和歌の修辞や漢詩のきまりを調べて発表する
三 学 期	1	軍記〈古文〉	木曾の最期（平家物語）	
		文章〈漢文〉	雑説	
	2	思想〈漢文〉	学問・人間・政治（論語）	
時間		俳句〈現代文〉	【言語活動】俳句を詠む	
講習				

言語文化の目標は、古語や古典文法、漢文における句法などの基礎知識をもとに古典を読解することを通して、伝統的な文化を理解し、新しい認識を獲得することである。これらの諸活動は、まず、古典を読むことから始まる。登場人物の心情や行動の理由を考えながら古典を味わうと同時に、当時の社会的制度や風俗習慣などの文化的背景への造詣を深め、豊かな社会認識を育むことを目指したい。

授業においては、ただ板書を写すだけといった受け身の姿勢は許容されない。新たな認識の獲得を目指して、常に自分の頭で考え続けようとする姿勢が求められる。必要なところはすべてノートに書き、ペアやグループにおける意見交換、クラス内での発表等の活動にも意欲的に取り組むべきである。

また、試験においては、出題者の意図を読み取ることが求められる。出題者が、何をどのように答えさせようとしているのかを見抜く力を身に付けたい。

最後に、学びの意義や目的を常に問い、試行錯誤のある学びをしてほしい。思想なき学びに意味はない。

現代文探究 I

年間授業計画

科目	現代文探究 I	履修	必修	学年	2	単位	2 単位
講座名	現代文探究 I	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。また、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。これらの資質・能力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 (2) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。また、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。これらの資質・能力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	行動観察、小テスト、定期考査 ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、ノート、定期考査 ・学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、振り返りシート、小テスト、提出物の取組 ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・提出物の内容を評価する。				

現代文探究の学び方

		学習の単元	学習の内容
一 学 期	月	【論理的文章】 逆説	○多面的に評価する 「弱いつながり」【思想】（東浩紀） 「手の変幻」【芸術】（清岡卓行）
	4	言葉と創造	○資料をもとに考えを深める 「国境を越える言葉」【言語】（長田弘） ＋「ニュースとコミュニケーション」（長田弘・国谷裕子）
	5	【文学的文章】 文学の扉	○内容を解釈する 「山月記」（中島敦） ＋「人虎伝」（漢文）
	6		
時間	7		
二 学 期	9	【論理的文章】 近代と現代の視点	○多面的に評価する 「科学・技術の歴史の中での社会」【科学】（村上陽一郎）
	10	情報と社会	○論点と要旨を把握する 「疑似群衆の時代」【情報】（港千尋）
	11	言葉と思考	○書き手の意図をとらえる 「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」【環境】（関陽子）
	12	【文学的文章】 大正の小説	○解釈を深める 「ころも」（夏目漱石） ＋「現代日本の開化」（夏目漱石）
時間	12		
三 学 期	1	【論理的文章】 文章の背景	○構成や論理の展開を工夫する 「『安楽』への全体主義」【社会】（藤田省三） 若しくは
	2	社会の枠組み	○論点と要旨を把握する 「『である』ことと『すること』」【思想】（丸山真男）
	3	【文学的文章】 古典と現代語訳	○文体を考察する 「源氏物語」（与謝野晶子訳・谷崎潤一郎訳・角田光代訳等）
時間	3		
講習			

1、様々な、時には思いがけない切り口でそれを示してくれる文章と格闘し、筋道立てて読み取る力、考える力、正しく明確な日本語で表現する力、それを支える語彙の力を身につけよう。そして既知だったはずのことが、実は未知であったことを知る喜びを、たくさん味わってほしい。授業で「教わる」だけでなく、指定の問題集等に主体的に取り組むことを含め、多くの文章を読むことが力になる。

2、高校の「国語」の授業で小説を学ぶのは、表現された虚構の構造や叙述から、人物、情景、心情などを的確に捉える技術を養い、描写の妙を味わう力を磨くことで、言語によって描き出された世界が示してくれる真実を受け取れるようにするためだ。優れた小説は、読むたびに新たな真実を提示してくれる。それは、時に小説家自身に明白には意識されないままに表現されたものである可能性もある。高校の「国語」の学習では、小説家の意図を探るのではなく、言語による表現からその作品を読み解くのである。

◎古典探究と同様、文章の世界観を想像し、味わうことが大切である。

古典探究

年間授業計画

科目	古典探究	履修	必修	学年	4	単位	2単位
講座名	古典探究	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	行動観察、小テスト、定期考査 ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、ノート、定期考査 ・学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、振り返りシート、小テスト、提出物の取組 ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・提出物の内容を評価する。				

古典探究の学び方

		学習の単元		学習の内容	
	月	古文	漢文	古文	漢文
一 学 期	4	・説話	・故事成語	・古今著聞集「大江山」	・春秋左氏伝「病入膏肓」 ・淮南子「塞翁馬」
	5	・物語	・小説	・竹取物語「かぐや姫の昇天」 ・伊勢物語「初冠」	・搜神記「売鬼」
	6	・随筆		・枕草子「雪のいと高う降りたるを」 ・方丈記「ゆく河の流れ」	
時間	7				
二 学 期	9	・物語	・史伝	・源氏物語「光源氏の誕生」 (桐壺)	・史記「鴻門之会」
	10			・源氏物語「北山の垣間見」 (若紫)	・史記「項王最期」
	11				
12	・和歌	・漢詩	・和歌十六首 + 古今和歌集仮名序	・漢詩（近体詩） 王維「鹿柴」 王之渙「涼州詞」 李白「送友人」 杜甫「登高」 + 日本の漢詩文 菅原道真「自詠」 夏目漱石「無題」 森鴎外「航西日記」	
時間					
三 学 期	1	・物語	・思想	・大鏡「花山天皇の出家」	・道家、法家の思想 老子「大道廃、有仁義」 莊子「曳尾於塗中」 韓非子「聖人不期修古」
	2			・大鏡「弓争ひ」	
	3				
時間					
講 習					

古文を学ぶ上で押さえるべきポイントは大きく3つある。

- 1、現代語と意味の異なる古文単語
- 2、助動詞・助詞・敬語などの古文文法
- 3、文章読解を通して培う古文常識

漢文を学ぶ上で押さえるべきポイントは大きく4つある。

- 1、漢文の文章構造
- 2、漢文の重要単語と重要助字
- 3、反語や使役といった重要句形
- 4、文章読解を通して培う漢文常識

◎現代文探究と同様、古典の世界観を想像し、味わうことが大切である。

現代文B（3学年）

学習目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書し表現することによって人生を豊かにする態度を養う。論理的な文章については、論理の展開や要旨を的確に捉える力を、文学的な文章については、人物像、心情の変化を的確に捉え、表現を味わう態度を養う。また、「話すこと・聞くこと」の総合的な力を養う。

3学年現代文年間授業計画

科目	現代文B	履修	必修	学年	3	単位	2単位	
講座名	現代文	担当	未定					
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に押さえ、書き手の意図を捉える力を向上させる。 ・文章を読んで、人間、社会、自然について考えを深めさせる。 ・文学的な文章において、人物、情景、心情の描写を的確に捉え、表現を味わう力を向上させる。 ・目的や課題に応じて、様々な情報を収集、分析し、自分の考えを効果的に表現する力を向上させる。 							
月	学習の単元	学習の内容						
一学期	4	(評論) 虚ろなまなざし	<ul style="list-style-type: none"> ・一枚の写真を通して、物を見ること・伝えることにまつわる問題について考えを深める。また、メディアの持つ力やメディアを通じて他者を批判する側に潜む暴力性について考える。 ・近代文学の始まりに位置する作品を読むことを通じて、近代社会に生きる人間が置かれた状況とその葛藤について理解し、人間・社会について考えを深める。 					
	5	(小説2) 舞姫						
6								
時間	7							
24								
二学期	9	(評論) 貨幣共同体	<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣の価値が「共同体」によって成立していることを知るとともに、「モノ」と「貨幣」との関係性についての考察を深める。 ・議論の鍵となる概念を示す語の意味を正確に理解し、「リスク社会」に生きる私たちに求められることは何か、考えを深める。 ・大学入試模擬問題・過去問題演習。主として「大学入学共通テスト」を意識して、模擬問題や対策として使える入試過去問題を、演習形式で解く。 					
	10	(評論) リスク社会とその希望						
時間	11	(入試問題演習)						
24	12							
三学期	1	特別時間割	様々な入試問題を解くことで、問題に対する取り組み方を学ぶ。					
	2							
3								
時間								
評価の方法	定期考査・小テスト・提出物・課題等をもとに、総合的に判断して評価する。							
講習	講習等を適宜、行う。生徒の学習状況に即して講習の内容を工夫する。							

現代文学習の留意点

○語彙力

現代文の学習で、まず、必要なのは語彙力である。

評論などで使われる重要語については、必ず辞書や『読解評論文キーワード』等で確認し、意味・用法をしっかりとわかるようにしておこう。語彙力がつければ、今までわからなかった文章が理解できるようになり、自分の世界観がより広がることを自覚できることと思う。

また、漢字は依然として手で書けることが要求されている。問題集などで繰り返し練習しよう。

○読解力

評論においては、論理の展開をしっかりとつかみ、筆者の主張をしっかりと捉えることが必要になる。教科書や問題集の評論は完全に理解できるまで何回でも読み直そう。また日ごろから、テレビ・新聞・ネット等のニュースなどを通じて、評論が現代社会のどんな問題を反映しているのかを知っておこう。更に、そのような社会問題に対して自分なりに意見を持つことが、小論文を書く時に役立つ。

また、紙に書かれたたくさんの文字を読む機会が最近では少なくなっているのだから、読書や問題演習を通じて読解のトレーニングを積むことが望ましい。

小説においては、情景や会話から登場人物の心情を捉えることが重要である。読解のヒントは、必ずその小説の描写の中にある。一人よがりの解釈にならないように気をつけよう。

○表現力

小論文などを書くための基礎として、語彙力・読解力の養成は不可欠だが、それを踏まえた上で頭の中にある思考をアウト・プットして実際に書く練習を積み重ねることが必須である。また、書いたものは必ず読み返し、場合によっては先生に読んでもらい、完成度が高くなるまで何度も推敲を重ねることが肝要である。

* 「現代文」の学習では、入試のためにだけ、文章を読むのではない。自分の世界を広げ、深めるために、評論や小説を読んでいこう。

これから求められる国語の力

経済効率や生産性を重視する現在の社会状況の中で、それらに直接寄与しないと思われがちな「国語」や「文学」という学問は、不用なものと思われがちです。

けれども、人間が意思決定する時、その判断に大きく影響を与えるのは、実は「理性」ではなくて「感情」の方なのだということが最近の脳科学や進化心理学などによってわかってきました。

そして、人間は主として言語によるコミュニケーションによって他者との意思の疎通を図ります。従って、言葉の扱い方が時に人の意思決定を左右することも起こりうるということです。

相手との直接のコンタクトを持つことが少なくなっているネットの時代だからこそ、数値では測れない相手の感情を文章から正確に読み取り、こちらの気持ちを正確に文章で伝えることがより重要になってきていると言えます。

そしてそういった、社会で人間生活を送る上で必要不可欠な能力を磨く学問こそが、「国語」であり「文学」であるのです。

古典B（3学年）

学習目標

古典を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3学年古典年間授業計画

科目	古典B		履修	文系必修	学年	3	単位	4単位
講座名	古典		担当	・				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典を読む力を養うとともに、ものの見方、考え方、感じ方を豊かにする態度を育てる。 ・ 入試に対応できる実践的な力を身につける。 							
	学習の単元			学習の内容				
	月	古文	漢文	古文		漢文		
一学期	4	随筆	逸話	・ 宮に初めて参りたるころ（枕草子）		・ 不若人有其宝（新序）		
	5	日記	古代の史話	・ うつろひたる菊（蜻蛉日記）		・ 唇亡齒寒（戦国策）		
		日記	史記の群像	・ 夢よりもはかなき世の中 （和泉式部日記）		・ 張儀（史記）		
	6	日記	元代の文章	・ 若宮誕生（紫式部日記）		・ 賢母辞拾遺（南村輟耕録）		
時間	7	日記						
	45							
二学期	9	物語	明代の文章	・ 須磨の秋（源氏物語）		・ 売柑者言（誠意伯文集）		
	10	評論	明代の文章	・ 深草の里（無名抄）		・ 道平、人皆由道（呻吟語）		
		物語	清代の文章	・ 菅原道真の左遷（大鏡）		・ 夢語之巧合（右台仙館筆記）		
	11	入試問題演習	入試問題演習	・ 入試問題演習		・ 入試問題演習		
時間	12							
	55							
三学期	1	特別時間割	特別時間割	・ 大学入試問題の過去問題を使った演習		大学入試問題の過去問題を使った演習		
	2							
	3							
時間								
評価の方法	定期考査・小テスト・提出物・課題等をもとに、総合的に判断する。							
講習	講習等を適宜、行う。生徒の学習状況に即して講習の内容を工夫する。							

古典学習の留意点

○古文

最終的には、自力で、古文を読み通すことができる力を身につけてほしい。予習、復習は欠かせない。それには、まず、音読し、全体の内容をおおまかに把握することが大切である。そして、読み進めるにつれて、さらに正確な内容がつかめるようにしたい。

内容を読み取る時に、まちがった方向に進めることがないようにするには、次の四点が必要である。

① 文法

文法で押さえておきたいのは、用言の活用、助動詞の意味・活用・接続、敬語である。用言の活用をしっかりと覚えれば、助動詞の接続がわかるようになる。接続がわかるようになれば、助動詞の意味や識別ができるようになるので、これらは密接な関係にある。

また、敬語は、敬語の種類、敬意の方向、訳し方をしっかりと押さえよう。それによって、登場人物の人間関係、主語、働きかける対象がわかってくる。

② 語彙力

意味のわかる古語をふやすことによって、まちがった方向で解釈するリスクは減ってくる。語彙力を増やすには、日ごろから、わからない古語があったら、辞書を引くこと。その際には、例文を確認して、文脈に最もよく合う意味を見つけよう。入試で出てくる古語の意味は文脈の中で問われることが多い。教科書の教材の予習の時から、多くの意味の中でどれが最適か、いつも考えるようにしよう。

また、語源を押さえておくと、多くの意味の中で核となる意味を押さえることができる。

③ 登場人物の関係・主語・動作の対象の把握

古文では、主語や動作の対象が省略されている場合が多い。また、一文が、現代文よりも長く、途中で主語が変わることも多い。文脈をつかむには、その文の主語が何か、会話の話し手、聞き手が誰かに注意しながら読み進める。挿入句も多いので、主語に対しての述語が何か、きちんと押さえると間違えることが少なくなる。その際に、敬語を理解しておけば、主語や述語が押さえやすい。

④ 古文の世界の知識

その作品の書かれた時代についての知識、その作品の文学史上の位置がわかっていると、内容把握の手助けになる。

○漢文

漢文は、訓読できることがまず、大事である、白文でも、書き下し文にできるようになると良い。なぜなら、訓読は、句法、古文の文法、漢文の構成がきちんとわかっていないとできないからだ。そのためにも、漢文も、日ごろから予習、復習が必要だ。書き下し文はもちろん、書いておくこと。更に、漢和辞典、参考書を活用しながら、自分で現代語訳を考えて書いてくること。

授業後は、その日に習った句法を問題集や暗唱プリントで復習し、同じ句法を使った問題を解いておくと定着する。

文章の内容については、筆者の主張を押さえること。また、史話の場合は、登場人物の関係を把握すること。また、寓話では、筆者はたとえによって、何を伝えたかったかをつかもう。

そして句法音読プリントを、できるだけ白文で、何度も音読し、かつ訳せるようにしておくことをお勧めする。

地理歷史科

地理歴史科学学習指導計画

教科の学習目標

地歴科の学習目標は、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養うことにあります。グローバル化がますます進む社会ですが、そうした国際社会の中で日本は平和で民主的な国家として主体的に活動してきました。そのような日本国民として必要な自覚と資質を身につけること、それが地歴科の目標です。

日本国民として必要な自覚と資質とは何か。答えは簡単ではありません。しかし、この日本という国やグローバル化の進む世界がどのように形成されてきたかという歴史的過程や生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深めることは、この自覚と資質に深くかかわることになります。

そのために、本校では必修科目として「歴史総合」・「地理総合」、選択科目として「日本史探究／世界史探究／地理探究」を設置しています。

一年次の新課程「歴史総合」では、近現代史を中心として、日本と世界の歴史を関連付けて、さまざまな史資料を活用し、地理的条件なども踏まえて理解を深め、現代社会の抱える諸課題を歴史的観点から考察していきます。それによって、歴史的思考力が培われ、この科目においても、グローバル化の進む国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養っていきます。

二年次の「世界史探究」を選択する人は、「世界史探究」を通じて、世界の歴史の大きな枠組みと展開をさまざまな資料から学び、地理的条件や日本の歴史との関連も意識しながら、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察していきます。これによって、歴史的思考力はさらに洗練され、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質も充実したものになるのです。

二年次の「日本史探究」では、日本の歴史の展開をさまざまな資料に基づき、さらに地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することで、日本の伝統と文化の特色についての認識を深め、歴史的思考力を発展させていきます。それが、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質をますます実のあるものにしていきます。新課程の生徒は、二年次に「地理総合」を必修として、「日本史探究」と「世界史探究」の選択があります。

三年次の旧課程では「世界史B」「日本史B」「地理B」のいずれかを選択することで、二年生までに育んだ国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を主権者という意識とともに、社会に出る人間としての資質にまで高めていきます。いずれも学ぶことは容易ではありません。膨大な情報量につぶされそうに感じることもあるでしょう。しかし、それらの情報を教養として身につけない人間は社会に出て、尊敬される人間にはなり得ません。「必履修だから」という消極的な理由ではなく、社会人として必要な教養を身につけるという意欲を持って、深く学んでほしいと私たちは考えます。

科目	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
歴史総合	1	必修	2	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社）	
地理総合	2	必修	2	地理総合 世界に学び地域へつなぐ（二宮書店）	詳解現代地図 最新版（二宮書店） 新詳地理資料 COMPLETE2023（帝国書院）
世界史探究	2	文必	4	世界史探究（実教出版）	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
日本史探究	2	文必	4	詳説日本史（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 新詳述日本史史料集（実教出版）
世界史B・演習	3	文必・自選	2～6	詳説世界史B（山川出版社）	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
日本史B・演習	3	文必・自選	2～6	詳説日本史B（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 新詳述日本史史料集（実教出版）
地理B	3	自選	2～6	詳解地理（二宮書店）	新編地理資料（とうほう）

地歴を学ぶにあたって

○学習上の留意点

教科の学習目標にも書きましたが、地歴科の科目は国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を身につけることが目標です。入試に必要な不必要、また理系文系という狭い視野にとらわれず幅広い視野から学んでもらいたいと思います。

学び方については、歴史と地理で異なります。歴史はストーリーになっています。壮大なストーリーの流れとつながりを学び、最終的には記憶に残していく作業になります。暗記は苦手という人も多いですが、①インパクトをつけることと、②繰り返すことを念頭に努力を重ねてみてください。日に日に手ごたえを感じるはずですよ。

地理は歴史と学習方法が異なります。日々の授業で基本事項を確実に身につけることは歴史と変わりませんが、地図帳や『地理用語集』を手元に準備してこまめに見る習慣をつけることが大切です。地理には「自然地理」分野と「地誌」の分野がありますが、「自然地理」分野である世界の大地形や世界の気候、土壌、農業分野などを基礎とし、その上に鉱工業・資源エネルギー分野や「地誌」を学習していくような手順も大切です。

教科の学習目標にもあるように、歴史も地理も、社会人になったときに身につけていなければならない教養です。国際社会に主体的に生きる日本人となれるよう、受験にあるなしにかかわらず、しっかりと学習しましょう。

○授業の受け方

授業で学びながら身につけることが最も理想的な地歴の学習法です。そのためには、関心をもって主体的に学ぶ姿勢が大切です。学ぶことが楽しいと感じる一時であって欲しいと思いますし、私たち教員もみなさんが興味をもてる授業に努めます。

ただ、ノートをとるばかりでなく、学んだ内容について自分で考え、意見をもち、時には積極的な発言や発表も求められます。みなさんの意欲的な参加を求めます。

○歴史的・地理的な思考力を養おう

授業だけでなく、歴史や地理は日常生活に深くかかわっています。日々のニュースで流れる世界各地で起こっている出来事について目にしたときに、その国はどこにあるのか、どのような気候なのか、どんな歴史を歩んできたのか、なぜその出来事が起きているのか、様々な疑問がわいてきます。旅行先でも、この寺院はどのような由来があるのかとか、あの木に実っているのは何の実なのだろうとか、さまざまな興味が生まれてきます。

何気ない日々の関心が、歴史や地理の学習につながります。日々、アンテナを張って過ごしてほしいと思います。

日々精進なり



歴史総合

年間授業計画

科目	歴史総合		履修	必修		学年	1	単位	2単位	
講座名	歴史総合		担当	未定						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。		近現代史を中心とする世界と日本の歴史から課題を見出し、史資料を活用して多面的・多角的に考察する。			近現代史を中心とする世界と日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究する。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。 知識を適切に表現できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の歴史から課題を見出し、史資料を活用して多面的・多角的に考察している。 国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 			<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究している。 国際社会に主体的に生きる社会の一員としての責任を果たそうとしている。 				
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査			振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表				
月	学習の単元		学習の内容							
一 学 期	4	(1) 近代化と私たち	資料をもとに、近代化にともなう人々の生活や社会の変化について考え、疑問に思う点などをまとめて、問いを表現する。(例) 交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民 【関連する歴史的事象】 ①結びつく世界 ・オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国、明の朝貢体制、幕藩体制下の日本、琉球とアイヌ、主権国家体制の形成、宗教改革、ヨーロッパ人の海外進出など ②近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレオン時代、ウィーン体制、自由主義、ナショナリズム、1848年革命、ドイツの統一、ロシアの近代化、アメリカ合衆国の拡大、帝国主義、インド・東南アジアの植民地化、アヘン戦争、ペリーの来航など ③明治維新と日本の立憲体制 ・新政府の発足、四民平等への諸改革、自由民権運動の展開、立憲体制成立など ④帝国主義の展開とアジア ・条約改正、日清戦争、日本の産業革命、帝国主義、アフリカの植民地化、列強の中国進出と変法運動、日露戦争、辛亥革命、インド東南アジアの民族運動など							
		①結びつく世界								
時間	5	②近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立								
		6								
24	7	③明治維新と日本の立憲体制								
		④帝国主義の展開とアジア								
二 学 期	9	(2) 国際秩序の変化や大衆化と私たち	資料をもとに、国際秩序の変化や大衆化にともなう人々の生活や社会の変化について考え、疑問に思う点などをまとめて、問いを表現する。(例) 国際関係の緊密化、米国とソ連の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化 【関連する歴史的事象】 ⑤第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦の開戦、総力戦、日本の参戦、戦時外交と米国の参戦、ロシア							
時間										
28	9	⑤第一次世界大戦と大衆社会								

	10	⑥経済危機と第二次世界大戦	<p>革命、日本のシベリア出兵、パリ講和会議と国際連盟の成立、ワシントン会議、東アジア・インド・東南アジア・アフリカの民族運動、大衆消費社会の到来、日本の大衆文化と消費文化、大正政変と普通選挙運動、普通選挙法と治安維持法など</p> <p>⑥経済危機と第二次世界大戦 世界恐慌の発生、米国のニューディール、ソ連の社会主義、ファシズム体制の広がり、ドイツのナチズム、政党内閣と金融恐慌、満州事変、二・二六事件、二中戦争、第二次世界大戦の開戦、三国同盟、独ソ戦、日米交渉と太平洋戦争など</p> <p>⑦戦後の国際秩序と日本の改革 冷戦のはじまり、東南アジア・南アジアの独立、パレスチナ戦争、終戦処理と戦犯裁判、新憲法制定と民主化、占領政策の転換と朝鮮戦争、平和条約の締結、日米安保条約の締結など</p>
	11	⑦戦後の国際秩序と日本の改革	
	12		
三 学 期	1	(3) グローバル化と私たち ⑧冷戦と世界経済	<p>資料をもとに、グローバル化にともなう人々の生活や社会の変化について考え、疑問に思う点などをまとめて、問いを表現する。(例) 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存</p> <p>【関連する歴史的事象】 ⑧冷戦と世界経済 集団防衛体制の構築、核開発競争、雪どけ、ヨーロッパ統合、第三世界の連携、アフリカ諸国の独立、中東戦争、日本社会党の統一と保守合同、日本の国際社会復帰、沖縄返還、高度経済成長、消費の拡大と流通の変容、キューバ危機、核軍縮、中ソ対立と中国の混乱、ベトナム戦争、ドル＝ショック、石油危機、開発独裁とアジアの経済発展、プラザ合意、民営化と規制緩和など</p> <p>⑨グローバル化する世界 ソ連の行き詰まり、新思考外交、イラン＝イスラーム革命、湾岸戦争、ソ連崩壊、ユーゴスラヴィア紛争、経済のグローバル化、開発途上国の民主化と独裁政権の動揺、中国の民主化問題、中東の紛争、アフリカの紛争、55年体制の崩壊、バブル経済の崩壊、21世紀の日本政治など</p> <p>⑩現代の課題 グローバル化がもたらす問題、人権問題、自然環境問題、情報化社会、人口減少社会の到来、原子力発電と自然災害、現在の日本とこれからの日本など</p>
時間	2	⑨グローバル化する世界	
	3	⑩現代の課題	
18			
講習		特になし。	

歴史総合の学び方

○学習の留意点

歴史総合は、世界と日本の歴史の大きな枠組みと展開を、近現代史を中心に学ぶ科目です。現代の世界は、国々や諸地域が緊密に結び付き、相互の関係を深め、また激しく変化しています。そうした中で、現代世界の基本的な構造とその変動について、歴史的観点から把握しようとするねらいがあります。

地球的・人類的規模の課題の解決が要求されつつある現代世界において、学習内容が単なる文明や国家ごとの通史の羅列となることのないよう、歴史的事象の因果関係について動的・構造的に把握できるように意識づけしていきます。

歴史総合は近現代史を重点的に学習する科目となっているため、一年生で履修する歴史総合では古代・中世については学習しません。近代から一年間しっかり学習することにより、多くの受験生が手薄になりがちな近現代史について高校三年間で余裕を持って取り組むことができます。

○授業の受け方について

歴史総合の授業は、近現代から授業がスタートするということと、中学校で十分な下地がないまま世界史についても習い始めるということで、まず馴染みの無いカタカナに困惑してしまうこともあるかもしれません。また、「社会は暗記科目だから歴史総合も丸暗記でなんとかなる！」と思っている人もいることでしょう。しかし、単に年号を覚え、人物や事件の名前を覚えるだけの作業に意味はありません。今を理解するためには、なぜ今の世界になったのか、歴史をさかのぼって知ることで見えてくるものが多いです。歴史総合を学習することがすなわち、現代を見つめる視座を養うことになるでしょう。今を知るために過去に目を向け、過去を知ることでこれからの世界や生き方について、考えを深めてもらえたら幸いです。

○家庭学習について

歴史総合は、テーマに基づいて自ら問いを設定し、個人及びグループでの調べ学習や協働学習、発表なども実施します。常に自宅学習課題がある、というわけではありませんが、必要時には発表に向けた準備も必要です。また、授業で学んだ知識の定着には、復習が何よりも大切です。中間考査や期末考査は、その成果を発揮する機会として、目標をもって臨みましょう。

○受験対応について

歴史総合は、国公立入試の一次試験にあたる「大学入学共通テスト」の科目の一つです。さらに文系選択者は、歴史総合での学びを土台として、2年次から「日本史探究」か「世界史探究」を選択します。

歴史総合の授業や毎回の定期考査をしっかりと学習して臨めば、それがすなわち三年生の受験勉強に直結します。また、近代を先取りすることによって二年生から学ぶ古代・中世史も、その先の近代史を意識しながら学ぶことができ、理解がしやすくなることでしょう。つまり、歴史総合をしっかりと学ぶことが受験勉強に直結することになるので、定期考査の形式も大学入試の内容を反映した形で作成し、受験特有の問題形式に早い段階から慣れてもらおうと考えています。

○探究的な活動

学期につき1単元程度、探究的な学習の機会を設けます。グループに分かれて単元に関連する異なるテーマについて分担して、資料を元に主体的・協働的に学習することで深く学ぶ姿勢を培いましょう。「歴史を暗記する」のではなく「歴史を探究する」楽しさを知って、二年生以降の日本史探究や世界史探究の学習に役立てて欲しいと考えています。

地理総合（2学年）

年間授業計画

科目	地理総合		履修	必修	学年	2	単位	2単位
講座名	地理総合		担当	平田 正樹				
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	世界や日本の地理的事象について、基本的な事項を互いに関連付けながら理解し、その知識を確実に身につける。		世界や日本の地理的事象について、その課題を想定し、地図や写真、統計資料を活用して多面的・多角的に考察する。		世界や日本の地理的事象について、関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究する。			
評価規準	世界や日本の地理的事象について、基本的な事項を互いに関連付けながら理解し、その知識を確実に身につけている 身につけた知識を適切に表現できる		世界や日本の地理的事象について、課題を想定し、地図や写真、統計資料を活用して多面的・多角的に考察している。 ・国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。		・世界や日本の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究している。 ・国際社会に主体的に生きる社会の一員としての責任を果たそうとしている。			
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査			
月	学習の単元		学習の内容					
一学期 時間	4	1 地図とGISの活用	1 球面上の世界 世界からみた日本の位置と領域 国内や国家間の結びつき くらしの中の地図とGIS 2 地形と生活文化 気候と生活文化 産業と生活文化 宗教・言語と生活文化					
	5	2 地理的環境の特色						
	6							
一学期 時間	7		3 経済発展と生活文化の変化（東アジア） 宗教の多様性と生活文化（ASEAN諸国） 水の恵みと生活文化（南アジア） イスラーム社会の多様性と生活文化（イスラーム圏） 多様な気候と生活文化（アフリカ） 経済統合による生活文化の変化（EUと周辺諸国） 寒冷な気候と生活文化（ロシア） グローバル化による生活文化の変化（アメリカ・カナダ） 土地の開発による生活文化の形成（ラテンアメリカ） 植民と移民による生活文化の形成（オセアニア） 4 地球環境問題 資源・エネルギー問題					
	9	3 世界各地の生活文化						
	10	4 地球的課題						
	11							
	12							
三学期 時間	1	5 地球的課題	5 人口・食料問題 居住・都市問題 6 日本の自然環境と防災 生活圏の諸課題と地域調査					
	2	6 生活圏の諸課題						
	3							
講習								

地理総合の学び方

○地理を学ぶ意義

現代は、交通手段や通信事情が飛躍的に進歩しました。気軽に海外へ出かけたり、世界各地のニュースを瞬時に知ることができるようになりました。私たちの毎日の暮らしの中には、世界各地で生産されたものが溢れています。こうした経済活動や文化交流におけるグローバル化は、今後、ますます進んでいくことでしょう。

こうした社会に身をおいていると、世界はどこでも同じような生活が行われていると思いがちになります。しかし、世界には様々な環境や文化があり、その上に築かれている生活様式は、必ずしも一律ではありません。現代世界が直面している環境問題、人口問題、都市問題、領土・民族紛争、経済格差の拡大などは、こうした地域性の違いが要因になっていることは否定できません。地理は、こうした世界の多様性を理解することが大切な科目です。

もちろん、そのための手がかりとして、地理の基本的知識を頭に入れておかなければならないことが多いことも事実ですが、単に読図ができたり、産地を覚えたりすることが本質ではありません。国際社会は絶えず変化し、そのスピードはますます早まっています。地理では、その変化に対応できる柔軟な思考力を養い、未解決の世界的諸問題に挑戦する意欲を持って欲しいと思います。

○授業の受け方について

授業では、地図帳を大いに活用しましょう。地理では、さまざまな事象を必ず地図上に落として表現するくせを身につけることが大事です。現代は変化が激しいため、各種統計資料にも、こまめに目を通しましょう。また、ノートは必須です。板書項目以外でも、必要と思われることはメモを取りましょう。その時に気づいたことや感想・意見などを記載しておくのも有効ですし、興味ある出来事は、自分で調べてまとめておくのも理解を深めます。

○家庭学習について

大学受験を意識した授業展開となりますので、復習を中心にした家庭学習の習慣をつけましょう。特に、ノート整理に重点を置く学習が効果的です。重要語句は、自分のことばで表現し直してみることや、都市名などは地図に書き込んでみることをやってみましょう。理解を深めるために、教科書以外の教材を使用してみるのも一つの手です。復習事項をため込まず、少しずつでも地理に触れていれば、自ずと世界観や統計の感覚が身につくものです。

○受験対応について

年間の授業を通して、系統的な切り口からの領域については完了する予定です。大学入試問題の演習も行いますが、問題の傾向は各大学によって異なりますので、それぞれの特徴を理解しておきましょう。また、国公立大学の2次試験などの論述問題は、個別に指導する予定です。

世界史探究（2学年）

年間授業計画

科目	世界史探究	履修	必修選択	学年	2	単位	4単位
講座名	世界史探究	担当	尾上 雄輝				
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	前近代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。		前近代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。		前近代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たす。		
評価規準	前近代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。また、それを適切に表現するスキルがある。		前近代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現することができる。		前近代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。		
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表		
月	学習の単元		学習の内容				
一 学 期 時間 48	4	人類の出現	最新の研究成果で人類の起源を確認。				
	5	オリエント世界の形成	人類最古の世界帝国の出現と落日をまとめる。				
	6	南アジア、東南アジア世界の形成	インドと東南アジアに於ける古代文化の形成。				
	7	東アジア世界の曙	殷周～秦漢帝国を中心とする東アジアの黎明期。				
二 学 期 時間 56	9	中央ユーラシア世界の形成と展開	スキタイに始まる遊牧帝国の形成。				
	10	東アジア世界の変動と再編	南北朝から隋唐帝国を経て南宋の世界まで。				
	11	地中海世界とヨーロッパの形成	地中海世界における文明の形成から、ローマ帝国まで。ゲルマン人の移動から中世ヨーロッパ世界の成立。				
	12	イスラーム世界の形成と拡大	イスラーム教の成立からアッバース朝を経てイスラーム圏の多極化まで。				
三 学 期 時間 36	1	ヨーロッパ社会の変容	ラテン＝カトリック圏の拡大とその動揺と秩序の変容。				
	2	中央ユーラシアと諸地域の交流・再編	東アジアの変容とモンゴル世界帝国の出現。				
	3	ユーラシア・アフリカの海の世界	世界を繋ぐ海のネットワークの成立。				
講習	必要に応じて夏期・冬期に復習と問題演習を中心とした講習を数日間実施する。						

世界史探究の評価基準

主体的に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
前近代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	前近代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	前近代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。また、それを適切に表現するスキルがある。

世界史探究の学び方

○世界史探究学習の留意点

世界史は、どのような専門分野に進んでもその基盤となる重要な教養です。授業では、哲学・法学・経済学・文学・自然科学・芸術…様々な学問の基礎について少しずつ学びながら、現代世界で何が問題となっているのかという大きなテーマについても考える機会となる、少し欲張りでお得な、大学や社会できっと役に立つ授業を行っていきます。

受験対策の面では、これまでの受験指導のノウハウを総動員して、質の高い授業を一生懸命展開していきますので、頑張ってください。2大柱であるヨーロッパ史と中国史を軸に勉強を進めつつ、その間をつなぐイスラーム史などの東西交流も扱っていきます。タテの流れ（2大柱を中心に国・王朝や制度の変遷）とヨコのつながり（同時代のつながり・東西交流）も意識して学んでいきましょう。

勉強の基本は学校の授業です。受験を意識して、塾や参考書を重視して学校の勉強をおろそかにするのは本末転倒です。授業をおろそかにして自力で一からやるのは至難の技で、効率的ではありません。「学問に王道なし」です。

そして「ローマは一日にして成らず」でもあります。世界史は確実に努力が実る科目です。日々、着実に知識を積み重ねていきましょう。

世界史は暗記科目ではありますが、現代世界の基本的な構造とその変動について、歴史的観点から把握するという壮大なねらいもあります。

地球的・人類的規模の課題の解決が要求されつつある現代世界において、学習内容が単なる文明や国家ごとの通史の羅列となることのないよう、歴史的事象の因果関係について動的・構造的に把握できるよう意識づけしていきたいとも考えています。

○授業の受け方について

授業で学びながら、同時に自身の身に着けることが最も理想的な地歴の学習法です。そのためには、関心をもって主体的に学ぶ姿勢が大切です。いやいやではなく、学ぶことが楽しいと感じる一時であってほしいと授業する側は思っています。

ノートをとるばかりでなく、学んだ内容について自分で考え、意見を持ち、時には積極的な発言や発表も求められます。

みなさんの意欲的な参加を求めます。

○家庭学習について

世界史探究は基本的には予習不要です。家庭学習はしっかり国数英の予習と復習にあてましょう。定期考査前にしっかり復習するようにしましょう。

○受験対応について

学習の留意点で書いたように、世界史探究は選択科目ですので、受験を意識して選択した人が多いと考え、そのつもりで授業の準備を進めます。日々の授業が受験勉強の基礎ともなりますから、日々の学習にしっかりと向かいましょう。

日本史探究 (2年生)

年間授業計画

科目	地理歴史科	履修	必修選択	学年	2	単位	4単位
講座名	日本史探究	担当	大野 豊司				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について、資料を活用して多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現する。		古代から近世までの日本の社会・文化の特色について関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究する。			
評価規準	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身に付け、自らの考えに活かすことができる。	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について、資料を活用して多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現することができる。		古代から近世までの日本の社会・文化の特色について関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究することができる。			
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表			
月	学習の単元		学習の内容				
一学期 時間 48	4	・日本文化のあけぼの 旧石器・縄文・弥生時代	・これまでの考古学の研究成果などに基づいて、原始社会や文化の特色について、考察する。また、弥生時代の日本を記録した中国の文献史料を読み、歴史学的見地から弥生時代の様相を理解する。				
	5	・日本文化のあけぼの 古墳時代・ヤマト政権	・古墳時代前期・中期・後期の特徴とその背景となる社会構造の変化を理解する。				
	6	・律令国家の形成 律令国家の道・平城京の時代	・ヤマト政権から朝廷への変化とその内実に関する理解を、東アジア情勢と関連づけて深める。				
	7	・律令国家の形成 平安王朝の形成	・奈良時代の政争についての基礎知識を習得し、貴族政治成立期の様相を学ぶ。 ・平安遷都の背景や平安初期の政治改革について、その社会的背景に対する理解を深める。				
二学期 時間 56	9	・貴族政治と国風文化 摂関政治・国風文化	・摂関政治の特質と10世紀における東アジア情勢の変化と国内への影響を理解する。				
	10	・中世社会の成立 鎌倉幕府の成立 蒙古襲来と幕府の衰退	・荘園公領制の構造と荘園公領制が新たな社会構造を生み出したことを学ぶ。 ・保元・平治の乱とその背景を学習し、中世前期の社会状況に関する理解を深める。				
	11	・武家社会の成長 室町幕府の成立	・治承・寿永の乱の展開と鎌倉幕府の成立を、関連させて理解する。 ・宋・元などとの関係や仏教の動向に着目して、鎌倉後期の展開について考察する。				
	12	・武家社会の成長 幕府の衰退と庶民の台頭 ・武家社会の成長 戦国大名の登場	・室町幕府の成立や守護大名の成長を、中世社会の変質から考察する。 ・日明貿易など東アジア世界との関係に注目して、中世後期の社会について学ぶ。 ・惣村の成立や産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上などについて学習しながら、武家文化や庶民文化の形成を考察する。 ・近世社会形成の前提となる戦国時代の政治・経済・社会・文化について考察する				
三学期 時間 34	1	・近世の幕開け 織豊政権	・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解する。				
	2	・幕藩体制の成立 幕藩体制と社会構造	・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。				
	3						
講習	必要に応じて夏期・冬期に復習と問題演習を中心とした講習を数日間実施する。						

日本史探究の学び方

1. 日本史を学ぶ意義

日本史の学習というと、日本の歴史だけを学ぶものというイメージを抱いている諸君も少なくないでしょう。しかし、少なくとも近隣である中国大陸や朝鮮半島の歴史・伝統・文化を無視して日本史を考察することはできません。日本の伝統や文化は結局のところ、近隣諸国からの影響抜きで成立したわけではないからです。

以上の事柄を知らないと、得てして偏狭な考え方に陥ってしまいます。ですから、日本史は、「学習目標」に記した通り、「世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。以上のことによって幅広い歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きるための自覚を促し、国際社会で活躍できる資質を養う」ために、必要不可欠な科目なのです。

2. 古代史～近世史を意義

新撰組や坂本竜馬らが活躍する江戸時代末期から明治維新の歴史的展開は、歴史ファンならずとも多くの人々を魅了しています。この過程で、政権が天皇に移る「王政復古」が実現します。「復古」、つまり「いにしえに復する」のです。よって、明治維新を真に理解しようとするならば、実は古代史の理解が必要となります。

また、中世史というと、政治史的には武士勢力の伸張と、武家政権の支配がよく言われている特色ですが、一方で、実は朝廷や有力な寺社勢力、宗教者、農民や町民などの庶民も力を持っていた時代で、公権力の力が弱かったことは意外と知られていない事実です。公権力の救済が不十分だからこそ、権利を侵害された個人や集団が自己の実力によって権利を回復する「自力救済」の時代でもあったのです。さらには、今日に伝わる日本の古典文化がほぼ出そろうのは、この中世という時代です。現在の日本文化を理解するためには、中世文化の考察が不可欠となります。

このように近代や現代の日本を考察し、日本の多様性を理解するためには、古代史・中世史の学習が欠かせないこととなります。そこに、古代史や中世史を学ぶ意義のひとつがあります。古代史や中世史は中学時代の既習事項もありますが、中学生の時の歴史学習より深く、より論理的に学び直し、歴史的な考え方を育成することを重視しましょう。特に政治や経済、社会の発展と日本文化の形成・発展がどのように関わってくるのかということを考えられるとよいでしょう。

3. 授業の受け方

日本史の授業では何よりも集中して話を「集中して聴くこと」が重要です。授業中に配布されるプリント教材に記入をしながら、自分が重要だと感じた事柄や難しくて後になってから思い出しづらい知識や考え方をしっかりメモすることが重要です（そうして出来上がった教材プリントは結果的に、将来の受験勉強の強力な材料となります）。

次に、授業中の話を聴きながら、時折皆さんに問いかける質問の答えを「考える（考察する）こと」も重要です。日本史は確かにペーパーテストだけを考えれば、単なる暗記科目に成り下がってしまいますが、様々な条件を総合的に考察すると、物事の本質を捉えられるようになる優れた科目です。

「集中して聴くこと」、「考える（考察する）こと」の他に意識し、もうひとつ実践して欲しいことがあります。それは、自分の頭の中に歴史像を「構築すること」です。このことこそが、将来、自分たちが進むべき道を明確にするヒントとなります。幅広い知識とそれに基づいて構築された思考力、そしてその上に構築された価値観は、将来迷いが生じたときに自分の生きるべき道を見出していくことにもつながります。これを信じて授業を受けてください。教員の話すことを聞くことだけでは理解が進んだとは言えません。得た知識を活用し自ら考えることで、総合的な理解が進み、新たな疑問も生まれると思います。そうして得たものが学びだと思えます。ともに歴史から学びましょう。

なお、自宅学習はプリント教材の基礎事項を見直すなどの復習を中心に行ってください。その日に学んだ知識や話の流れを思い起こすだけでも充分、学習効果が上がります。一步一步着実に進めていきましょう。

世界史 B (3 学年)

学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開をさまざまな資料から学び、地理的条件や日本の歴史との関連を扱いながら、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察し、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学年世界史 B 年間授業計画

科目	世界史B	履修	必選	学年	3	単位	4 単位
講座名	世界史B	担当	江下 晋介				
学習の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開をさまざまな資料から学び、地理的条件や日本の歴史との関連を扱いながら、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察し、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						
月	学習の単元		学習の内容				
一 学 期 時間 45	4	近世ヨーロッパ世界の形成	ヨーロッパ世界の拡大・ルネサンス・宗教改革について学ぶ				
	5	近世ヨーロッパ世界の展開	主権国家の発展の様子を学ぶ				
	6	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	産業革命・フランス革命を中心に学ぶ				
	7						
二 学 期 時間 55	9	欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制の成立や国民国家の発展について学ぶ				
	10	アジア諸地域の動揺	ヨーロッパの進出によるアジア諸国の変容について学ぶ				
	11	帝国主義とアジアの民族運動	帝国主義の発展とアジアの民族運動の高揚について学ぶ				
	12						
三 学 期 時間	1	二つの世界大戦	二つの世界大戦に至る事情を学ぶ				
	2	冷戦と第三世界の独立	第二次世界他精選後の戦後世界について学ぶ				
	3						
評価の方法	毎回の定期考査 および 提出物などによる。						
講習	放課後や夏期講習を利用して行う。						

世界史 B の評価基準

主体的に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立つて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。また、それを適切に表現するスキルがある。

世界史 B の学び方

○世界史 B 学習の留意点

世界史は、どのような専門分野に進んでもその基盤となる重要な教養です。授業では、哲学・法学・経済学・文学・自然科学・芸術…様々な学問の基礎について少しずつ学びながら、現代世界で何が問題となっているのかという大きなテーマについても考える機会となる、少し欲張りでお得な、大学や社会できっと役に立つ授業を行っていきます。

受験対策の面では、これまでの受験指導のノウハウを総動員して、質の高い授業を一生懸命展開していきますので、頑張ってください。2大柱であるヨーロッパ史と中国史を軸に勉強を進めつつ、その間をつなぐイスラーム史などの東西交流も扱っていきます。タテの流れ（2大柱を中心に国・王朝や制度の変遷）とヨコのつながり（同時代のつながり・東西交流）も意識して学んでいきましょう。

勉強の基本は学校の授業です。受験を意識して、塾や参考書を重視して学校の勉強をおろそかにするのは本末転倒です。授業をおろそかにして自力で一からやるのは至難の技で、効率的ではありません。「学問に王道なし」です。

そして「ローマは一日にして成らず」でもあります。世界史は確実に努力が実る科目です。日々、着実に知識を積み重ねていきましょう。

世界史は暗記科目ではありますが、現代世界の基本的な構造とその変動について、歴史的観点から把握するという壮大なねらいもあります。

地球的・人類的規模の課題の解決が要求されつつある現代世界において、学習内容が単なる文明や国家ごとの通史の羅列となることのないよう、歴史的な事象の因果関係について動的・構造的に把握できるよう意識づけしていきたいとも考えています。

○授業の受け方について

基本的には1年で学ぶ「世界史A」や2年で学ぶ「世界史B」と同じです。

授業で学びながら、同時に自身の身に着けることが最も理想的な地歴の学習法です。そのためには、関心をもって主体的に学ぶ姿勢が大切です。3年生で受験があるから仕方なくではなく、学ぶことが楽しいと感じる一時であってほしいと授業する側は思っています。

ノートをとるばかりでなく、学んだ内容について自分で考え、意見を持ち、時には積極的な発言や発表も求められます。

みなさんの意欲的な参加を求めます。

○家庭学習について

世界史 B は基本的には予習不要です。しかし、3年生では受験を意識して復習には力を入れてほしいと思います。模擬試験や定期考査も、もちろん結果も大切ですが、自分が理解できていない点を明確にする機会ととらえて積極的に復習してほしいと思います。

○受験対応について

3年で選択した以上、受験を考えて選択したものと理解して授業を進めていきます。時には入試問題を取り上げることもあると思いますが、自分で選択したという自覚をもって、積極的に授業に臨んでください。

日本史 B (3 学年)

学習目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基いて地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。以上のことによって歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きるための自覚を促し、国際社会で活躍できる資質を、主権者という意識とともに養う。

3 学年日本史 B 年間授業計画

科目	日本史B	履修	必選	学年	3	単位	4 単位
講座名	日本史B	担当	矢吹 健治				
学習の目標	① 世界史的視野に立って、我が国の歴史（特に古代・中世史）の展開を総合的に考察する。 ② 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、社会人として必要な能力や態度を養う。 ③ 資料・史料を活用し、多面的、多角的な歴史の把握により、歴史的思考力を培う。 ④ 大学入試問題の演習を通じて、大学入試に対応できる実践力を身につける。						
月	学習の単元	学習の内容					
一 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化のあけぼの 旧石器・縄文・弥生時代 					
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化のあけぼの 古墳時代・ヤマト政権 					
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成 律令国家の道・平城京の時代 					
時間	7	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成 平安王朝の形成 					
48							
二 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・貴族政治と国風文化 摂関政治・国風文化 					
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・中世社会の成立 鎌倉幕府の成立 蒙古襲来と幕府の衰退 					
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・武家社会の成長 室町幕府の成立 					
時間	12	<ul style="list-style-type: none"> ・武家社会の成長 幕府の衰退と庶民の台頭 					
56							
三 学 期	1	特別時間割					
	2						
	3						
時間							
評価の方法	全 4 回の定期考査、提出物、授業態度等を総合的に評価する。評価基準については次の項目を参照のこと。						
講習	夏期休業中に授業で取り扱わない近世史の講習や冬期休業中に問題演習の講習を実施する。						

日本史 B の評価基準

主体的に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、有用な資料を活用し、歴史的事象について意欲的に追究している。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、有用な資料の活用や地理的・世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、適切に表現している。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を地理的・世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身につけている。また、資料を活用する技能を身に付け、歴史を公正に判断することができる

1. 日本史を学ぶ意義

日本史の学習というと、日本の歴史だけを学ぶものというイメージを抱いている諸君も少なくないでしょう。しかし、少なくとも近隣である中国大陸や朝鮮半島の歴史・伝統・文化を無視して日本史を考察することはできません。日本の伝統や文化は結局のところ、近隣諸国からの影響抜きで成立したわけではないからです。

以上の事柄を知らないと、得てして偏狭な考え方に陥ってしまいます。ですから、日本史は、「学習目標」に記した通り、「世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。以上のことによって幅広い歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きるための自覚を促し、国際社会で活躍できる資質を養う」ために、必要不可欠な科目なのです。

2. 古代史・中世史を学ぶ意義

新撰組や坂本竜馬らが活躍する江戸時代末期から明治維新の歴史的展開は、歴史ファンならずとも多くの人々を魅了しています。この過程で、政権が天皇に移る「王政復古」が実現します。「復古」、つまり「いにしえに復する」のです。よって、明治維新を真に理解しようとするならば、実は古代史の理解が必要となります。

また、中世史というと、政治的には武士勢力の伸張と、武家政権の支配がよく言われている特色ですが、一方で、実は朝廷や有力な寺社勢力、宗教者、農民や町民などの庶民も力を持っていた時代で、公権力の力が弱かったことは意外と知られていない事実です。公権力の救済が不十分だからこそ、権利を侵害された個人や集団が自己の実力によって権利を回復する「自力救済」の時代でもあったのです。さらには、今日に伝わる日本の古典文化がほぼ出そろったのは、この中世という時代です。現在の日本文化を理解するためには、中世文化の考察が不可欠となります。

このように近代や現代の日本を考察し、日本の多様性を理解するためには、古代史・中世史の学習が欠かせないこととなります。そこに、古代史や中世史を学ぶ意義のひとつがあります。古代史や中世史は中学時代の既習事項もありますが、中学生の時の歴史学習より深く、より論理的に学び直し、歴史的な考え方を育成することを重視しましょう。特に政治や経済、社会の発展と日本文化の形成・発展がどのように関わってくるのかということを考えられるとよいでしょう。

3. 授業の受け方

日本史の授業では何よりも話を「集中して聴くこと」が重要です。授業中に配布されるプリント教材に記入をしながら、自分が重要だと感じた事柄や難しくなって後になってから思い出づらい知識や考え方をしっかりメモすることが重要です（そうして出来上がった教材プリントは結果的に、将来の受験勉強の強力な材料となります）。

次に、授業中の話を聴きながら、時折皆さんに問いかける質問の答えを「考える（考察する）こと」も重要です。日本史は確かにペーパーテストだけを考えれば、単なる暗記科目に成り下がってしまいますが、様々な条件を総合的に考察すると、物事の本質を捉えられるようになる優れた科目です。

「集中して聴くこと」、「考える（考察する）こと」の他に意識し、もうひとつ実践して欲しいことがあります。それは、自分の頭の中に歴史像を「構築すること」です。このことこそが、将来、自分たちが進むべき道を明確にするヒントとなります。幅広い知識とそれに基づいて構築された思考力、そしてその上に構築された価値観は、将来迷いが生じたときに自分の生きるべき道を発見していくことにもつながります。これを信じて授業を受けてください。

自宅学習はプリント教材の基礎事項を見直すなどの復習を中心に行ってください。なお、大学入試を突破するためには、各大学の出題傾向を分析・把握することも大切です。難関大学を目指す場合には、基礎的な知識に加えて、細かい歴史的事実にも配慮しましょう。大学入試センター試験や難関私大の入試では、正誤問題や史料問題への対策がポイントです。また、国公立大学の二次試験の論述では、教科書の内容をふまえた文章表現力が要求されます。教科書を熟読・精読しましょう。入試問題では、現代的関心から出題されることもあります。国内外の動向にも注意したいものです。

地理 B (3 学年)

学習目標

国内や国外における多様な自然環境や文化的背景を理解し、グローバル化時代に対応できる能力を養う。
 地上にあらわれる様々な現象には、一定の法則や秩序があることに気づく。
 大学入試に対応できる学力を身につける。

3 学年地理 B 年間授業計画

科目	地理B	履修	必選	学年	3	単位	4 単位
講座名	地理B	担当	未定				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 国内や国外における多様な自然環境や文化的背景を理解し、グローバル化時代に対応できる能力を養う。 地上にあらわれる様々な現象には、一定の法則や秩序があることに気づく。 大学入試問題の演習を通じて、大学入試に対応できる実践力を身につける。 						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間	4	地理情報と地図 地形図の活用 世界の地形 日本の地形	地球と時差 地図にみる世界観の変化 図法の特徴と用途 地形図の基本知識 地図記号 読図の基本 世界の大地形 山地・平野地形 その他の地形 小地形				
	5	世界の気候	気候要素と気候因子 気候と植生 土壌 気候帯と気候区分				
	6	環境問題 世界の農林水産業	世界の環境問題 日本の気候環境 農業の起源と伝播 世界の農業形態 各地域の農牧業				
48	7	日本の農林水産業 食糧問題	日本の農業・林業・水産業 世界と日本の食糧問題				
二学期 時間	9	エネルギー資源 鉱産資源	世界のエネルギー消費 天然ガス 石炭 石油 電力 鉄鉱石 非鉄金属 日本のエネルギー				
	10	世界の工業 欧米諸国の工業 アジアの工業 その他の地域の工業	工業の発達 工業立地 さまざまな工業 アメリカ合衆国 ヨーロッパ 東アジア 東南アジア 南アジア ロシア 南アメリカ オセアニア アフリカ				
	11	商業・交通・通信 人口 都市・村落	さまざまな消費生活 交通・通信の発達 貿易と国際協力 世界の人口問題 村落/都市の立地条件・進展				
56	12	生活文化、民族・宗教	世界の衣食住 人種と言語 国家の分類 領土・民族問題				
三学期 時間	1	特別時間割					
	2						
	3						
評価の観点及び評価方法	<p>「知識・技能」における観点は、現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付け、その技能を適切に使えることとし、定期考査及び提出物の内容で評価する。「思考・判断・表現」における観点は、現代世界の地理的事象から課題を見だし、それらを多面的な視点から考察できることとし、定期考査及び提出物により評価する。「主体的に学習に取り組む態度」における観点は、現代世界の地理的事象に対する関心を持ち、諸課題に意欲的に取り組むことができることとし、学習活動への取り組みや課題などの提出状況により評価する。</p>						
講習	講習等を適宜行う。						

地理 B の学び方

○地理を学ぶ意義

現代は、交通手段や通信事情が飛躍的に進歩しました。気軽に海外へ出かけたり、世界各地のニュースを瞬時に知ることができるようになりました。私たちの毎日の暮らしの中には、世界各地で生産されたものが溢れています。こうした経済活動や文化交流におけるグローバル化は、今後、ますます進んでいくことでしょう。

こうした社会に身をおいていると、世界はどこでも同じような生活が行われていると思いがちになります。しかし、世界には様々な環境や文化があり、その上に築かれている生活様式は、必ずしも一様ではありません。現代世界が直面している環境問題、人口問題、都市問題、領土・民族紛争、経済格差の拡大などは、こうした地域性の違いが要因になっていることは否定できません。地理は、こうした世界の多様性を理解することが大切な科目です。

もちろん、そのための手がかりとして、地理の基本的知識を頭に入れておかなければならないことが多いことも事実ですが、単に読図ができたり、産地を覚えたりすることが本質ではありません。国際社会は絶えず変化し、そのスピードはますます早まっています。地理では、その変化に対応できる柔軟な思考力を養い、未解決の世界的諸問題に挑戦する意欲を持って欲しいと思います。

○授業の受け方について

授業では、地図帳を大いに活用しましょう。地理では、さまざまな事象を必ず地図上に落として表現するくせを身につけることが大事です。現代は変化が激しいため、各種統計資料にも、こまめに目を通しましょう。また、ノートは必須です。板書項目以外でも、必要と思われることはメモを取りましょう。その時に気づいたことや感想・意見などを記載しておくのも有効ですし、興味ある出来事は、自分で調べてまとめておくのも理解を深めます。

○家庭学習について

大学受験を意識した授業展開となりますので、復習を中心にした家庭学習の習慣をつけましょう。特に、ノート整理に重点を置く学習が効果的です。重要語句は、自分のことばで表現し直してみることや、都市名などは地図に書き込んでみることをやってみましょう。理解を深めるために、教科書以外の教材を使用してみるのも一つの手です。復習事項をため込まず、少しずつでも地理に触れていれば、自ずと世界観や統計の感覚が身につくものです。

○受験対応について

年間の授業を通して、系統的な切り口からの領域については完了する予定です。大学入試問題の演習も行いますが、問題の傾向は各大学によって異なりますので、それぞれの特徴を理解しておきましょう。また、国公立大学の2次試験などの論述問題は、個別に指導する予定です。

公民科

公民科学習指導計画

教科の学習目標

公民科の学習目標は民主社会を形成する人間を育てることにあります。そのために必要な資質とは何でしょうか。それは必ずしも知識の多さではありません。さまざまな意見に公平に耳を傾けられるオープンな姿勢、自己の意見や立場に固執することなく自分を客観視できるゆとりも大事です。

公共は第2学年必修科目であり、私的な存在であるとともに公的な存在でもある私たちが、現代社会に主体的にかかわっていくための基礎的な知識を習得しつつ、現代の諸課題について主体的に自ら考えることで学習を深めていく科目です。

現代社会は第3学年必修科目であり、受験のための網羅的な学習はしません。現代の諸課題について班ごとに話し合ったり、またその成果を発表したりするなど、主体的な学習の機会を多く取り入れています。

倫理は日本や海外の思想（哲学や宗教、心理学や社会学）に学びながら、自分の視野を広げていく科目です。有名な思想に関する専門用語を知る事が問題になるのではなく、その用語をきっかけにして多様なものの見方考え方に触れることが目的です。自由選択科目ですが、共通テストで倫理を選ぶ生徒が多く選択する科目です。それなりのスピード感をもって全範囲を終えるべく夏季講習や2学期期末考査後の特別講習も予定しています。

政治・経済は社会のあり方を学ぶ科目というより、現代の社会をどう見るかその見方を学ぶ科目と理解することが大事です。これも自由選択科目で共通テストに対応できる実力を身に付けます。全範囲を学習するため授業のスピードは速く、夏季講習や2学期期末考査後の特別講習も予定しています。

科目	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
公共	2	必修	2	新版公共（数研出版）	最新公共資料集 2023（第一学習社）
現代社会	3	必修	2	現代社会（東京書籍）	ライブ!2023 公共、現代社会を考える（帝国書院）
倫理	3	自選	2	高校倫理 新訂版（実教出版）	アプローチ倫理資料PLUS（とうほう）
政治・経済	3	自選	2	高校政治・経済 新訂版（実教出版）	新版最新政治・経済資料集 2023（第一学習社）

公民を学ぶにあたって

○学習上の留意点

教科の学習目標にも書きましたが、公民科目は本校の新カリキュラムでは2年生からの履修科目ですが、旧カリキュラムでは3年生からの履修科目です。入試に必要な不必要、また理系文系という狭い視野にとらわれず幅広い視野から学んでいてもらいたいと思います。

国公立大学文系受験志望者の中には、地歴・公民から2科目を必要とする大学・学部があります。その時の地歴・公民2科目で公民科目を選択する生徒が毎年30人以上います。また1科目目だとしても、地歴が苦手だからとか2単位科目で教科書が薄いからという理由だけで選ぶ生徒がいます（特に自選の倫理や政治・経済）。

ただし、旧課程で3年生の履修科目であるということはクラスでの授業が2学期期末直前(11月下旬)までしかないことを意味します(2学期末考査終了後は特別時間割や家庭学習になります)。もちろん試験後の特別授業や夏季冬季の講習もありますが、正規の授業ではないのでしばしば他科目(社会科1科目目の日本史や世界史)の授業とぶつかり実質受講できない場合もあります。

安易な気持ちで科目選択をすると後悔することになります。自分自身で継続的な学習ができないと範囲を終えることさえできない場合がありますので注意してください。

○授業の受け方

新カリキュラム必修の2年公共および旧カリキュラム必修の3年現代社会は受験に特化せず、全員に必要な科目として教材を精選しています。大学に入るためというより大学に入ってから必要な内容です。内職や居眠りをするような場面(ゆとり?)はないはずです。積極的な発言や発表が求められます。

倫理や政治・経済など選択科目については少人数でかつ共通テスト対策も視野に入れた授業ですので、授業進度はかなりのものです。休むことなく学習内容に持続な関心を持ち続けることが必要になります。そのためには1年生の頃から自分の教養を高めておく必要があります。

○1年生の頃には・・・

上に述べたように履修自体は2・3年生からですが、1年生の頃から下地を養う必要があります。そのために必要なことは、

- ① 日々のニュースを欠かさず見て時事問題に強くなる…継続してニュースを見るとその背景がわかる
- ② 日々学習する他の教科を疎かにしない…「家庭基礎」「保健」「理科」「国語」etc.
(1年生で学んだ「歴史総合」の知識が国際政治・国際経済・倫理分野学習の土台となります)

読書のすすめ

言うまでもないことですが読書は自分の世界を広げてくれます。それによって世界の見方が変わるだけでなく自分のあり方まで変わります。読書の好きな人は自分が変わることに楽しさを感じることができます。変わることは楽しいことなのです。

勉強とは変わらない自分にただ受験のノウハウやテクニックをつけさせることではありません。豊かな読書経験を持つ人はそのことを体験的に知っています。1年生の頃から読書習慣を身に着け、柔軟な学習姿勢を養っておいてください。

公共

年間授業計画

科目	公共	履修	必修	学年	2	単位	2単位
講座名	公共	担当	浅沼 一弘				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。				
評価規準	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。				
評価方法	定期考査及び提出物等により評価	定期考査及び提出物等により評価	提出物及び授業中の取り組み姿勢を観察等により評価				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本原理	青年期と自己形成・人間としての自覚・日本人としての自覚 西洋近現代の思想・現代の諸課題と倫理 民主社会の基本原理・日本社会の基本原理					
時間	23						
一学期	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第6章 国際社会の動向と日本の役割	日本の政治機構・政治参加と民主政治の課題 経済のしくみと市場機構・財政と金融・日本経済の発展と変化・豊かな生活と福祉の実現 国際政治の動向					
時間	30						
三学期	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	国際政治の課題と日本の役割・国際経済の動向と国際協力 課題探究の観点・課題探究の手引き					
時間	17						
講習							

公共の学び方

○公共学習の留意点

公民科の学習目標は民主社会を形成する人間を育てることにあります。そのために必要な資質とは何でしょうか。それは知識の多さだけではありません。さまざまな意見に公平に耳を傾けられるオープンな姿勢、自己の意見や立場に固執することなく自分を客観視できるゆとりも大切です。

公共は第2学年必修科目であり、受験のための知識中心の学習はしません。皆さん自身が現代の諸課題について主体的に学習していく機会を多く取り入れる予定です。また、共通テストの出題傾向として、単なる知識だけでなく思考力判断力が試されるような出題が目立つようになっています。そのことも見据えバランスの取れた学力を身に付けるように指導を行っていきます。皆さんもそのことを念頭に置いて学習を進めていただきたいと思います。

○受験対応について

新指導要領に基づく大学入試共通テストの公民科目出題形式は、公共と倫理及び公共と政治・経済(地歴との関連では公共と歴史総合と地理総合)となる予定です。本校では公共を2年生の必修科目とし、さらに3年生全員が公民科目(倫理、政治・経済のうちどちらか)を必修選択とすることで、すべての生徒が公民科目で受験をすることが可能なカリキュラムとなっています。

しかしながら、2年生の初めから受験を意識しすぎるのは好ましいことではありません。多くの学校行事に積極的に参加して、総合的な人間力を高めることがとても大事だと考えます。公共の学習も自らの人間力を高める教養として学んでほしいところです。公共で学んだ内容は、他の教科の学習に必ず生きてきます(もちろん他の教科の学習も公共の学習に生きてきます)。その学びの延長線上に入試の科目として公民科科目を考えられるようになるとういことです。また先述の通り、3年生では倫理と政治・経済のどちらかを学ぶこととなりますので、どちらが自分に向いているかを公共の学習を通じて吟味することも大切です。

現代社会

学習目標

民主社会の一員として必要な資質を養う。

現代社会の抱える諸問題について理解を深め、主体的な判断ができる能力を養う。

他者とコミュニケーションを取りながら公平な視点で判断し、また自分の意見を公正に発信できる態度を養う。

現代社会年間授業計画

科目	現代社会		履修	必修		学年	3	単位	2単位
講座名	現代社会		担当	篠本 隆康					
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会が抱える諸問題について合意形成に向け話し合い、主体的な意見形成ができる。 現代社会と青年の生き方について幅広い分野から考え、理解を深める。 法の支配と個人尊重や日本国憲法の原理について、自ら探究し具体的に理解する。 現代経済のしくみや特徴について具体的に理解する。 								
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4	私たちの生きる社会	現代社会の諸課題 地球環境問題 資源・エネルギー問題 科学技術の発達と生命						
	5	現代の社会と人間 青年期と自己形成の課題	現代社会と青年の生き方 青年期の発達課題 青年期の自己形成 進路と生きがいの創造 よりよく生きることを求めて						
	6		哲学と人間 宗教と人間 近代科学の考え方 日本の伝統思想の考え方 外来思想の受容と日本人の自覚						
	7	現代の社会と人間 日本国憲法と民主政治	民主政治とは 基本的人権について 日本国憲法の基本原理 基本的人権の保障 平和主義について						
時間	24								
二 学 期	9	現代の社会と人間 日本国憲法と民主政治	日本の政治機構 国会 内閣 裁判所 現代政治の特質と課題 選挙のしくみと課題						
	10	現代社会と法	現代社会と法 司法と人権						
	11	現代の経済と国民福祉	経済と人間 財政 金融						
	12	国際社会と人類の課題	国際政治・経済のしくみと動向 国際紛争を避ける仕組み 戦後国際経済の枠組みとその変化						
時間	28								
三 学 期	1	特別時間割							
	2								
	3								
時間									
評価の方法	定期考査は各学期末を予定 その他班別の学習状況や提出物などを総合的に判断して評価する。								
講習	夏季講習を予定								

評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる事柄や学び方の知識を身に付けるとともに、現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付け、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。

現代社会の学び方

○現代社会学習の留意点

公民科の学習目標は民主社会を形成する人間を育てることにあります。そのために必要な資質とは何でしょうか。それは必ずしも知識の多さではありません。さまざまな意見に公平に耳を傾けられるオープンな姿勢、自己の意見や立場に固執することなく自分を客観視できるゆとりも大事です。

現代社会は第3学年必修科目であり、受験のための網羅的な学習はしません。現代の諸課題について班ごとに話し合ったり、またその成果を発表したりするなど、主体的な学習の機会を多く取り入れていきます。

左記の年間授業計画にあるように扱う内容は多岐に渉るので、幅広く持続的な関心が必要になります。

○受験対応について

本校では現代社会は3年全員必修科目ですが、一般的には現代社会（2単位）は1年で履修することが多く、3学期までの授業で一応全範囲は終えているものです。その上さらに3年で選択授業を履修すれば、ある程度問題演習までできる時間が取れます。現代社会の代わりに倫理と政治・経済（合計4単位）を履修させる高校もありますが、その場合でも倫理か政治・経済のどちらかは1・2年生の間に履修し終わっているのが普通です。

このような場合であれば3年生の忙しい時期でも受験対応が取れると思いますが、3年生になってから初めての勉強で受験まで持っていくのはとても大変です。

もちろん普段から持続的な学習時間が確保できている人は問題ありませんし、現代社会など公民科目が好きだという積極的な理由で選択する人であれば、国公立文系の地歴・公民科の2科目めや理系の地歴・公民科の科目としてむしろ勧めたいです。その場合、志望大学が現代社会での受験を認めているかどうかを必ず確認する必要があります。

ただ、安易な気持ちでの選択は大きな後悔につながるので慎重に考えてもらいたいと思います。学習の留意点でも書いたように、必修の授業は受験に特化していません。現代社会での受験希望者には別途補習や夏期講習を予定していますが、基本的に自学自習が中心と考えてください。

以上の助言を踏まえた上でそれでも現代社会で受験したいという場合は、自選で政治・経済の受講を考えてください。現代社会の出題では政治・経済分野がかなりのウェイト（分量も点数配分も）を占めます。

倫理

学習目標

倫理は過去の思想に学びながら現代の諸課題を考えてゆく科目です。自由で公平なものを見方を身につける必要があります。大学入試共通テストに対応する必要もかなりの授業進度です。

倫理年間授業計画

科目	倫理	履修	自選	学年	3	単位	2単位
講座名	倫理	担当	未定				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての自覚を深めながら現代の諸課題について理解を深める。 ・過去の哲学・宗教などに学びながら自由で公平なものを見方を習得するよう努める。 ・民主社会の形成者として必要な資質を身につける。 ・社会の一員として周囲と協調共同しながら問題を解決できる姿勢を養う。 ・大学入試共通テストに対応できる知識を習得する。 						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間	4	人間としての自覚 ギリシア思想 ヘレニズム期の思想	ギリシア神話 イオニア自然哲学 ソクラテス プラトン アリストテレス ストア派 エピクロス学派				
	5	中国思想 キリスト教	諸子百家 儒家思想 老荘思想 宋学 ユダヤ教 旧約の思想 イエス パウロ				
	6	ローマ期のキリスト教 イスラム	アウグスチヌス トマス・アクィナス ムハンマド コーラン				
	7	インド思想	ウパニシャッド哲学 仏教				
24	日本の伝統思想	日本の伝統思想については夏季講習で行う予定					
二学期 時間	9	日本の近代思想	明六社 自由民権 明治期のキリスト教 漱石・鴎外 近代的自我の問題 社会主義思想 独創的な思想（西田・和辻） 民俗学 超国家主義				
	10	西欧近代思想 ルネサンスと宗教改革 合理的精神の確立 社会契約説	人文主義者 万能人 ルター カルヴァン 大陸合理論（デカルトなど） 英国経験論（ロックなど） モラリスト ホッブズ ロック ルソー 啓蒙思想				
	11	ドイツ観念論 功利主義 実証主義	カント ヘーゲル ベンサム ミル コント				
	12	現代思想					
三学期 時間	1	特別時間割					
	2						
	3						
評価の方法	1学期 2学期の定期考査を中心に評価する。						
講習	夏季講習を予定						

評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、人格の形成に生かす知識として身に付けるとともに、青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用する。また追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立つて主体的かつ公正に判断する。	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。

倫理の学び方

○倫理学習の留意点

高校の地歴・公民科の科目で唯一、諸君が中学校では学んでいない科目です。哲学・宗教、心理学・社会学などについて、古今東西幅広く学びます。教科書は薄いですが柔軟な頭が求められます。

共通テスト対策として専門用語をただ覚えるというだけの姿勢では学習は続きません。いつもの自分とは全く違う頭の働かせ方、違う感性への共感理解も必要です。しかし内容が分かればこんなに面白い科目はありません。開かれた心が何よりも大切です。

どんな思想家にも学ぶべきところ、今日の諸課題に役立つところがあります。専門用語はいかめしくまた晦渋な響きですが、表面に惑わされずその奥に込められた思想家の思いを理解しましょう。

○受験対応について

もし公民科が倫理だけで受験できる場合は有利な選択になります。しかし第2志望、第3志望以下の受験大学までその1科目で対応できるか、慎重に調べなければなりません。共通テスト入試を行っている私大の場合、地歴・公民で倫理を選択できるかどうか調べる必要があります。国立の個別試験や私大の独自試験で倫理を受験科目としている大学としては、国立は筑波大学の一部、私立では中央大学の文学部などがありますが、かなり限られています。実際には国公立大学文系受験の共通テスト地歴・公民2科目めとして選択する人がほとんどです。旧帝大などのレベルの大学では、倫理・政経での受験を求めている大学も多いので注意が必要です。

また第1希望には必要ないが第2希望で必要になるという場合もあるかもしれません。その場合はやはり倫理という科目、哲学や思想を学ぶのが好きということが基本にないと勉強に身が入らないこととなります。

フランスの哲学教育

フランスの高等学校（リセ）でも高校3年生は文系理系に分かれますが、文系の場合は週8時間、理系でも週3時間哲学の授業があるそうです。そんなに沢山の時間何を勉強するのかと疑問になりますが、講義の他、週何時間も作文に時間をあてるのです。ただ文を読んで理解するだけではだめで自分の文章で表現できて初めて理解したことになると考えられているのです。

大学入試も哲学の問題は1-2行程程度の短い文章（一定の主張）であり、それについて半日も時間をかけて自分の主張を述べるのがすべての学部の入試にあるのだそうです。

いったい誰が採点するのかということも気になりますが、なんと普段生徒の作文指導をしている高校の先生が、大学入試の採点をするのだそうです（もちろん誰の答案かは分からないようになってる）。所変われば品変わるとは言いますが、同じ大学入試でも国によってずいぶん違うものですね。

政治・経済

学習目標

民主社会の一員として必要な素質を養う。

現代社会の抱える諸問題について理解を深め自分なりの意見を持つ。

他者とコミュニケーションを取りながら公平な視点で判断しまた自分の意見を素直に発信できる態度を養う。

政治・経済年間授業計画

科目	政治・経済		履修	自選		学年	3	単位	2単位
講座名	政治・経済		担当	浅沼 一弘					
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・価値観が多様化し複雑さを増す社会の中で生きぬくために、多面的・多角的に事象を捉える力を養う。 ・多くの社会的課題の存在を認識し、自分自身と強い関わりがあるものとして主体的に考える力を養う。 ・大学入試共通テストに対応できる知識の習得 								
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4	民主政治の基本原理	政治と法について学ぶ。社会契約説を概観し、さまざまな権利の発達を理解する。人権宣言や憲法を手掛かりとして、近代民主主義の原理や課題を学ぶ。憲法成立の過程を概観し、明治憲法と日本国憲法の比較などを通して、現行憲法の基本原理を理解する。国会・内閣・裁判所などの統治機構を理解し、身近な政治としての地方自治について理解を深める。選挙制度のや政治参加について自分自身のこととして学ぶ。						
	5	日本国憲法の基本的性格							
	6	日本の政治機構							
	7	現代日本の政治							
時間	24		経済社会の変容及び現代経済のしくみは夏期講習で行う予定						
二 学 期	9	現代経済と福祉の向上	日本経済の歩みや、環境・公害、労働問題、社会保障について理解する。主権国家を基本単位とする国際社会がどのような政治を生み出したかを学ぶ。人類が共存できる国際社会をつくるために何が必要なのかを考える。国際経済体制や地域経済統合など、グローバル化とそれに逆行する動向を合わせて学び、これからの経済のあり方について考える。						
	10	現代の国際政治							
	11	世界経済と日本							
	12								
時間	28								
三 学 期	1	特別時間割							
	2								
	3								
時間									
評価の方法	1 学期 2 学期の定期考査を中心に評価する。								
講習	夏季講習を予定								

評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の政治, 経済, 国際関係に関する基本的な事柄や, 本質, 特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論の知識を身に付けるとともに, 現代の政治, 経済, 国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し, 有用な情報を主体的に選択し活用するとともに, 追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治, 経済, 国際関係にかかわる事柄から課題を見いだし, その本質や特質, 望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに, 社会の変化や様々な立場, 考え方を踏まえ公正に判断する。	現代の政治, 経済, 国際関係に対する関心を高め, 意欲的に課題を追究するとともに, 国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。

政治・経済の学び方

○政治・経済学習の留意点

- ① 授業時数に限りがあるので政治分野中心となります。したがって経済分野については、夏期講習などで補うようにしますが自分でも学習してもらうことになります。また、授業・講習については共通テスト対策を中心としています。私大の受験科目として考えている人は、受験する大学に応じてさらに自学自習が必要だと考えてください。分からないところは質問を受け付けるなど、随時サポートはしていきませんが、自分自身で継続的な学習ができないのにもかかわらず、「地理が苦手」「教科書が薄い」などの安易な理由で選択すると苦しくなる可能性が高いです。
- ② 参考書・問題集は随時紹介します。参考書・問題集は必ず最新のものを購入してください。古いものは時事問題に対応できないので注意してください。
- ③ 他の分野を学習してはじめて理解できることが多くあるので、現代文の論説文や歴史の近現代史、地理なども並行して学んで下さい。
- ④ 日々のニュースや新聞に対して関心をもって下さい。

○受験対応について

留意点と重複しますが、授業中に受験対策の演習などをする時間は十分とは言えません。自分自身で計画的・継続的に学習する必要があります。共通テスト対策という点では、まず基本は教科書の通読です。教科書に出ていないことが出題されることはあまりありませんが、逆に言えば教科書に書いてあれば年表や図表など、どんな細かいことでも出題されるということになります（これは倫理にも言えることです）。問題演習をする場合は、単に解答するだけでなく、問題文・各選択肢・解説を細かく読み込んでください。「問題を使って学習する」感覚です。なお共通テストの過去問・対策問題は私大対策としても有効です。私大の問題は大学によって難易度がかなり違うので一概には言えませんが、資料集を細かく読み込むレベルまで学習する必要があります。

数学科

数学科学習指導計画

教科の学習目標

第1学年の数学Ⅰでは、中学数学を土台として具体的な事象の考察を重視し、数と式・2次関数・図形と計量・データの分析を学ぶ。基本知識の習得・整理を行い、数学を学び活用する基礎力・態度を育成する。数学Aでは、場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

第2学年の数学Ⅱでは、数学Ⅰを土台として具体的な事象の考察を重視し、式と証明・複素数と方程式・図形と方程式・三角関数・指数関数と対数関数・微分法と積分法を学ぶ。基本知識の涵養・整理をし、数学を学び活用する基盤・態度を育成する。数学Bでは、数列とベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

第3学年では、文系・理系に分かれ、理系では『数学Ⅲ』（理工医系）、または『数学ⅠAⅡB』（農薬看護系）を学習し、文系では、国公立大学を受験する生徒や数学が受験科目にある大学等を受験する生徒のために選択科目として数学の講座が開講される。開講される講座の具体的な内容については、今後の状況に応じて決定される。数学Ⅲでは、極限、微分法及び積分法、平面上の曲線と複素数平面についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
数学Ⅰ	1	必修	3	高等学校数学Ⅰ（数研出版）	4プロセス数学Ⅰ+A（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅰ+A（数研出版）
数学A	1	必修	2	高等学校数学A（数研出版）	4プロセス数学Ⅰ+A（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅰ+A（数研出版）
数学Ⅱ	2	必修	4	高等学校数学Ⅱ（数研出版）	4プロセス数学Ⅱ+B（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅱ+B（数研出版）
数学B	2	必修	2	高等学校数学B（数研出版）	4プロセス数学Ⅱ+B（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅱ+B（数研出版）
数学Ⅲ	3	理必	6	高等学校数学Ⅲ（数研出版）	4プロセス数学Ⅲ（数研出版） チャート式数学Ⅲ（数研出版）
数学演習（理）	3	理必	6	高等学校数学Ⅰ（数研出版） 高等学校数学A（数研出版） 高等学校数学Ⅱ（数研出版） 高等学校数学B（数研出版）	キートレーニング数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編（数研出版）
数学演習（文）	3	文選	4	高等学校数学Ⅰ（数研出版） 高等学校数学A（数研出版） 高等学校数学Ⅱ（数研出版） 高等学校数学B（数研出版）	キートレーニング数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編（数研出版）
数学標準演習（文）	3	文選	2	高等学校数学Ⅰ（数研出版） 高等学校数学A（数研出版） 高等学校数学Ⅱ（数研出版） 高等学校数学B（数研出版）	ニュースタンダードⅠ・A+Ⅱ・B受験編（数研出版）

数学を学ぶにあたって

○数学の授業を通じて身につけて欲しい力とは？

時代が変わり、社会が変化するにつれて、社会が必要とする学力観というものも少しずつ変化するものである。今は知識をすべて頭に入れてなくともPCやスマートフォンで検索することによって簡単に必要な情報を得られる時代になった。またAIの発達で機械的な作業は人間の出番は少なくなるという。そのような社会で生き抜くためには受け身ではなく主体的に学び、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力などの育成が必要であるといわれている。数学はあらゆる科学を記述する言語であり、思考モデルである。数学で使う論理は世界共通のものであり、学問の中でも最も古く先人の残した豊富な財産である。数学を学ぶことで科学的な考え方の精神を身につけ、他の応用的な学問への基礎力も身につけてほしい。

また、大学入試においても進路を実現するためには、数学を選択できると進路の幅がずっと広がる。大学入試共通テストでは、より未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力が必要な問題が出題されている。また、国公立の2次試験や私立大学の試験でも数学は記述問題が多い。そのためには「公式を覚えてただ計算するだけで求められる問題」だけが解けることが目標ではいけないということである。どのような答案が書けることが目標か・・・それは大学側の入試問題を採点するにあたってのコメントから察することができる。

(採点するにあたってのコメント)

- ・中途半端な公式やパターンの暗記は害である。無理に当てはめようとして不自然な思考に陥る。
- ・明らかな内容でも何故そうしたかを一言でも説明すべきである。
- ・採点官は、書いてあるか否かで判断する。内容から推察するようなことはしない。
- ・裏技的な公式が使えないように問題を工夫している。
- ・受験生には「論理性」と「計算力」を求める。
- ・途中の推論が正しければ最終的な答えに至らなくても部分点を与える。
- ・論理的記述力を見る問題では、答えのみ羅列しても得点は低い。
- ・易しい問題ほど論理の不備や説明不足は厳しく採点している。

○数学の授業を受ける上での注意点

上記のような共通テストや記述テストに対応できる力をつけるには普段の授業をどのように取り組んだら良いのだろうか？

公式を覚え、それを使いこなすこと・・・もちろんこれは重要であり、まず最初に身につけることである。しかし形だけを暗記するとすぐに忘れてしまう。それはその公式が誕生するストーリーを追っていないからである。その公式の証明を再現できるのがベストだがそこまで出来ずとも、こういう知識を使ってできたぐらいでもイメージがあればだいぶ違うはずである。また、自分自身の「なぜ？」を大切にすることである。すぐに解決しなくても取っておいて、機会があればいつか解決すればよい。「なぜ？」を解決した経験の多さが力になるはずである。

あと数学的な事実を確認するために具体的な数字や図形で実験してみることである。試しにやってみたり、実験して検証してみたりするという習慣がついていない人が多い。数学の実験は紙と鉛筆だけで出来るのだ。あと出来なかった問題は繰り返し解いてみるということである。人間は反復しないと新しい技術は身につかないものだ。是非粘り強く解き直ししてほしい。

記述の答案の書き方は無駄な部分はなるべく書かず必要な論理はしっかり書くことである。最終的な答えだけが解答ではなく「研究レポート」を短くまとめたものだと思えばよい。

文化としての数学、受験科目としての数学、ともに授業を通してしっかり身に付けてくれることを期待している。

数学 I

年間授業計画

科目	数学 I	履修	必修	学年	1	単位	3 単位
講座名	数学 I	担当	未定				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<p>数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>	<p>命題の条件や結論に着目し，数や文字式の計算の方法と関連付けて，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を養う。</p>	<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 命題の条件や結論に着目し，数や文字式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている， 図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 				

評価方法	行動観察, 小テスト, 及び定期考査 (単元テスト) ・学習への取り組みの様子, 発言やつぶやきなどの内容, ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し, その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し, その結果に基づいて評価する。	行動観察, 小テスト, 及び定期考査 (単元テスト) ・学習への取り組みの様子, 発言やつぶやきなどの内容, ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート, レポート等を回収し, その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し, その結果に基づいて評価する。	振り返りシート, 小テスト ・振り返りシートを回収し, その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し, その結果に基づいて評価する。
月	学習の単元	学習の内容	
一学期 時間 36	4 数と式	数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また, 式を多面的にみたり処理したりするとともに, 1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 集合と命題に関する基本的な概念を理解し, それを事象の考察に活用できるようにする。 ※集合については数学Aで扱う。 2次関数とそのグラフについて理解し, 2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに, それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	5 命題と証明		
	6 2次関数		
	7		
二学期 時間 42	9 図形と計量	三角比の意味やその基本的な性質について理解し, 三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに, それらを事象の考察に活用できるようにする。 統計の基本的な考えを理解するとともに, それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに, 等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	
	10		
	11 データの分析		
	12		
三学期 時間 27	1 数学Iからの発展学習	方程式についての理解を深め, 数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 座標や式を用いて, 直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し, その有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。	
	2		
	3		
講習	長期休業中に行う予定		

数学Iの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。(練習ドリルを活用してもよい。)教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)
→数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決して

から次の授業に臨む。

① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。

② 「計算ドリル」や「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
→問題演習を通して、解答を作る記述力（表現力）を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。（問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的）

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。

→見方・考え方を深め、資質・能力を育成、応用力を磨いていきます。

問題の解き直しについて

① 問題を解く方針が立たなかったとき

問題集を解いていて分からない問題にぶつかったとき、どうしたらいいだろう。じっくり考えることも大切だが、5分考えても見通しがつかなかった場合、まず解答をよく読み、しっかり理解して、頭の中で再現しながら一行一行きちんと記述してみよう。思い出せない時や、自信がない時はもう一度解答を見てもよい。（頭を使わず左から右へ写すような行為はやめよう。）そして、数日後に解き直しをする。

よく解答をきれいに写して理解したつもりになっている人がいるが、その問題がテストにそのまま出題されたときに本当に解けるだろうか。理解するだけでは、数学はできるようにならない。インプット（理解）とアウトプット（計算や記述）が両方できてやっと点数に結びつく。

② 途中まではできたが、「ケアレスミス」で間違えたとき

「ケアレスミス」は、実力不足・練習不足である。「ケアレス」だったのだから大丈夫、と思っていると、また何度も同じミスを繰り返し、いつまでも同様のミスを繰り返すことになる。ケアレスミスを本気で無くしたいなら、必ず間違えた理由を言語化し、間違えのパターンを記憶に残すようにしよう。

数学Ⅱ

間授業計画

科目	数学Ⅱ	履修	必修	学年	2	単位	4単位
講座名	数学Ⅱ	担当	未定				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしていたりしている。 			
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 		振り返りシート、小テスト <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 			
月	学習の単元	学習の内容					

一 学 期	4	図形と方程式 ・円 (8) ・軌跡と領域 (6)	図形と方程式、三角関数、及び指数関数と対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○円 ・円の方程式 ・円と直線 ・2つの円 ○軌跡と領域 ・軌跡と方程式 ・不等式の表す領域
	5	三角関数 ・三角関数 (11) ・加法定理 (8)	
時間	6	指数関数と対数関数 ・指数関数 (5) ・対数関数 (7)	○三角関数 ・角の拡張 ・三角関数 ・三角関数のグラフ ・三角関数の性質 ・三角関数の応用 ○加法定理 ・加法定理 ・加法定理の応用 ○指数関数 ・指数の拡張 ・指数関数 ○対数関数 ・対数とその性質 ・対数関数 ・常用対数
48	7		
	9	微分法と積分法 ・微分係数と導関数 (7) ・関数の値の変化 (8) ・積分法 (10)	微分法と積分法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○微分係数と導関数 ・微分係数 ・導関数とその計算 ・接線の方程式 ○関数の値の変化 ・関数の増減と極大・極小 ・関数の増減・グラフの応用 ○積分法 ・不定積分 ・定積分 ・定積分と面積
10	図形に関する発展的内容の学習		
時間	11		図形に関する発展的な内容について、問題集やプリントなどで演習を行う。
56	12		
	1	数 I A II B の総復習・発展的内容の学習	問題集・プリント等で演習をしながら受験に向けて実力を固める。
2			
三 学 期	3		
時間	36		
講習	長期休業中に行う予定		

数学Ⅱの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)
→数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
- ② 「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
→問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。

→見方・考え方を深め、資質・能力を育成。応用力を磨いていきます。

数学Ⅲ

学習目標

平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法および積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。

年間授業計画

科目	数学Ⅲ	履修	必選	学年	3	単位	6単位
講座名	数学Ⅲ	担当	未定				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・平面上の曲線がいろいろな式で表されること及び複素数平面について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・数列や関数値の極限の概念を理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・微分法積分法についての理解を深めるとともに，その有用性を認識し，事象の考察に活用できるようにする。 						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間 72	4 極限式と曲線	数列や関数値の極限の概念を理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・放物線・楕円・双曲線・媒介変数表示・極座標・媒介変数表示，極座標と極方程式 関数の積及び商の導関数について理解し，関数の和，差，積及び商の導関数を求める 合成関数の導関数について理解し，合成関数の導関数を求める。三角関数，指数関数及び対数関数の導関数を求める。 ・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第 n 次導関数 ・曲線の方程式と導関数 導関数を用いて，いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり，いろいろな関数の値の増減，極大・極小，グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかく。また，それらを事象の考察に活用する。 ・接線の方程式 ・平均値の定理 ・関数の値の変化 ・関数のグラフ ・方程式，不等式への応用 ・速度と加速度 ・近似値 積分法について理解を深めるとともに，その有用性を認識し，事象の考察に活用できるようにする。 ・不定積分・定積分とその基本性質 ・置換積分法と部分積分法 ・いろいろな関数の不定積分 ・定積分のいろいろな問題 ・面積 ・体積 ・曲線の長さ ・微分方程式					
	5 微分法						
	6 微分法の応用						
	7 積分法とその応用						
二学期 時間 84	9 複素数平面式と曲線	複素数平面について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 11 入試問題演習 数学Ⅲ入試問題演習①（プリント、問題集使用） ・単元別 ・入試頻出事項					
10							
12							
三学期 時間 54	1 特別時間割	数学Ⅲ入試問題演習② ・大学別 ・直前チェック確認事項					
2							
3							
評価の方法	定期考査、単元テスト、小テストの達成度や課題の提出状況等を総合的に判断して行う。						
講習	春季休業中と夏季休業中に開講予定						

評価の観点と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらの事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法と積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組み 課題・提出物の状況 ノート、プリント、レポート等	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 提出レポートの内容 提出ノートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト

数学Ⅲの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、おおまかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)

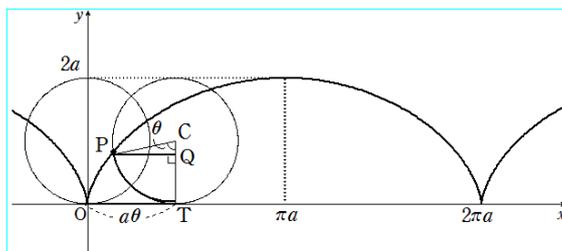
○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習はためずに必ずその日のうちに理解する。授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。「4プロセス」「チャート」等を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。(数学Ⅲは特に内容が高度で、6単位と進むスピードが速いので注意！)

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じることがある。週末を利用してじっくり復習し・定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。「4プロセス」「チャート」等を利用して、理解を深める。



数学A

年間授業計画

科目	数学A	履修	必修	学年	1	単位	2単位
講座名	数学A	担当	未定				
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	場合の数と確率，図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・場合の数と確率，図形の性質及び数学と人間の活動の関係についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素の関係などに着目し，新たな図形の性質を見だし論理的に考察したり説明したりできるとともに，図形の性質や作図について統合的・発展的に考察できる力を身に付けている。 ・事象の構造，確率の性質や法則に着目し，場合の数や確率を求める方法を多面的に考察したり，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり，期待値を意思決定に活用したりできる力を身に付けている。 ・数量や図形に関する概念などを，関心に基づいて発展させて考察したり，身近な遊びなどに数学的な要素を見だし，目的に応じて数学を活用して考察したりできる力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 		
評価方法	行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 		行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート，レポート等を回収し，その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 		振り返りシート，小テスト <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを回収し，その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 		
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	4	場合の数と確率	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○場合の数 ・集合の要素の個数 ・場合の数 ・順列 ・組み合わせ ○確率				
	5	・場合の数					
	6	・確率					

時間	7		・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行と確率 ・条件付き確率
一学期	9	図形の性質	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○平面図形 ・三角形の辺の比 ・三角形の外心・内心・重心 ・チェバの定理・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・2つの円 ・作図 ○空間図形 ・直線と平面 ・空間図形と多面体
時間	10	・平面図形	
	11		
28	12	・空間図形	
三学期	1	数学と人間の活動 ・約数と倍数	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 ○約数と倍数 ・約数と倍数 ・最大公約数と最小公倍数 ・整数の割り算における商・余り ○ユークリッドの互除法 ・ユークリッドの互除法 ・1次不定方程式 ○整数の性質の活用 ・n進法
時間	2	・ユークリッドの互除法	
18	3	・整数の性質の活用	
講習	長期休業中に行う予定		

数学Aの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。(練習ドリルを活用してもよい。)教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
 - ② 講義をノートにまとめる。
 - ③ 授業中に必ず理解できるようにする。(授業で勝負！)
- 数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
 - ② 「計算ドリル」や「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
- 問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。
→ 見方・考え方を深め、資質・能力を育成。応用力を磨いていきます。

数学B

年間授業計画

科目	数学B		履修	必修			学年	2	単位	2単位
講座名	数学B		担当	未定						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力を身に付けている。 確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。 日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 				
評価方法	行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> 学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 		行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> 学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ノートやワークシート，レポート等を回収し，その内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 			振返りシート，小テスト <ul style="list-style-type: none"> 振返りシートを回収し，その記述内容に基づいて評価する。 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 				
月	学習の単元		学習の内容							
一学期	4	数列	簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○数列とその和 ・等差数列と等比数列 ・いろいろな数列 ○漸化式と数学的帰納法 ・漸化式と数列 ・数学的帰納法							
	5	・数列とその和								
時間	6	・漸化式と数学的帰納法								
	7									
24										
一学期	9	統計的な推測	確率分布や統計的な推測についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○確率分布							
	10	・確率分布								

時間			<ul style="list-style-type: none"> ・確率変数と確率分布 ・確率変数の期待値と分散 ・確率変数の和と積 ・二項分布 ・正規分布
28	11	・統計的な推測	○統計的な推測
	12		<ul style="list-style-type: none"> ・母集団と標本 ・標本平均と分布 ・推定 ・仮説検定
三学期	1	数ⅠAⅡBの総復習・発展的内容の学習	問題集・プリント等で演習をしながら受験に向けて実力を固める。
	2		
時間			
18	3		
講習	長期休業中に行う予定		

数学Bの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
 - ② 講義をノートにまとめる。
 - ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)
- 数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
- ② 「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。

→問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。

→見方・考え方を深め、資質・能力を育成。応用力を磨いていきます。

数学演習（文）

学習目標

数学ⅠAⅡBを二次試験の受験科目とする文系生徒を対象とし、私立一般受験や国公立2次試験に対応できる実力を養成する。

年間授業計画

科目	数学演習（文）	履修	必選	学年	3	単位	4単位
講座名	数学演習（文）	担当	未定				
学習の目標	1学期中に、1・2年次で学習した内容からテーマの重なるものを単元にとらわれずにまとめて概観する。 2次試験を念頭に応用力を伸ばすことを目標とする。						
月	学習の単元	学習の内容					
一 学 期	4	全ての基本事項の確認 数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B 全範囲	数学ⅠAⅡB全範囲に渡る基本事項の確認 数と式/2次関数/図形と計量/データの分析 場合の数と確率/図形の性質/整数の性質 式と証明/図形と方程式/三角関数/指数関数と対数関数/微分法・積分法 ベクトル/数列				
	5						
	6						
時間	7						
48	7						
二 学 期	9	発展的融合問題演習 数学ⅠAⅡB全範囲	数学ⅠAⅡB全範囲に渡る発展的融合問題の演習				
	10						
	11						
時間	12						
56	12						
三 学 期	1	特別時間割					
	2						
	3						
時間	3						
評価の方法	定期考査での到達度、授業の取り組み方などを総合的に判断して行う。						
講習	長期休業中に開講予定。						

評価の観点と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。
評価方法	・学習活動への取り組み ・課題・提出物の状況	・定期考査 ・提出物の内容	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・小テスト

数学演習（文）の学び方

○選択の心構え

この講座は私立一般受験や国公立2次試験で数学ⅠAⅡBを受験科目とする生徒を対象としている。したがって1・2年次に学習した内容について、ある程度は身につけていることを前提としている。単元の融合問題を扱うので、しっかり取り組む姿勢が求められる。

また、演習授業全般について言えることであるが、授業における解説を聞いただけでは当然のことながら実際の問題に対応する力はない。自宅学習等においては授業時間数の2～3倍の自習時間が必要と考え、定着のために反復学習することが不可欠である。それだけの時間を、選択した他の数学演習講座の自習時間に加えて学習することになるので、他の講座よりもさらに強い覚悟が必要である。それなしに選択をすれば、全部の授業について消化不良をおこし、選択した意味がないという事態になりかねないので、よく考えて受講することが必要である。

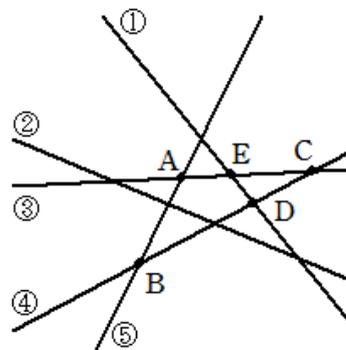
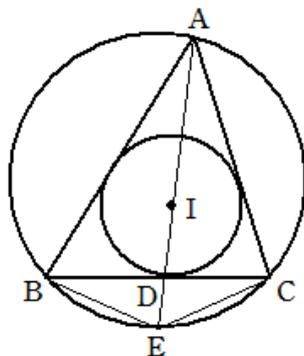
○選択の準備

文系難関大学の記述式試験に対応する力を身につけるためには基礎事項を授業時間内で復習することはできない。また授業と平行して基礎事項を思い出しながら問題演習を進めていけば、複数分野に横断的な内容があたりまえのように出題される記述式出題に対応できるようになるのは厳しいと言わざるを得ない。この講座の受講に当たっては、数学ⅠAⅡB全範囲の公式や基礎事項が既に頭の中の「引き出し」に入っている状態であるのはもちろんのこと、複数の「引き出し」からすぐに必要な知識をスムーズに取り出して、それらの組み合わせ方をイメージすることがある程度できる準備が必要となる。2年生の3学期（3年0学期）が終わるまでの間にどれだけ内容のある総復習を終えるかで、この授業の成果が左右されると言っても過言ではないのである。初回の授業までにしっかりと準備を整えておいてほしい。

○学習の進め方

1学期は全範囲に渡って項目別に応用問題までを扱う。2学期はやや発展的な融合問題を多く扱い、分野横断的な内容に対する対応力を身につける。

日々の学習に関しては、上記の通り授業時間の2～3倍の自習時間（予復習を含む）をかけて、十分に反復学習を行い、学習した解法をスムーズに再現できるようにするまでがこの講座の学習である。「わかる」ということは確かに大切なことだが、受験勉強において何より大切なのは「できる」ようになることだからである。



数学演習（理）

学習目標

農学部や薬学部などの数学ⅡBまでを入学試験の範囲とする生徒を対象として、数学ⅠAⅡBの重要事項の復習と、記述式の2次入試に対応した発展的な内容について知識の習得と技術の習熟を図る。

年間授業計画

科目	数学演習（理）	履修	必選	学年	3	単位	6単位
講座名	数学演習（理）	担当	未定				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 既習重要事項の確認、定着 正確な計算力と深い洞察力の涵養 過不足のない解答をまとめる力の育成 						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	4 基礎事項の確認 数学Ⅰ	数と式/関数と方程式・不等式/ データの分析 場合の数、確率/図形の性質/整数の性質 式と証明/三角比・三角関数/指数関数・対数関数/微分法/積分法 ベクトル/数列					
時間	5 数学A						
72	6 数学Ⅱ						
	7 数学B						
二学期	9 応用力の養成と弱点の克服 数学ⅠAⅡB	定着が不十分な単元についての補習 入試に即した形式での演習					
時間	10						
84	11						
	12						
三学期	1 特別時間割						
時間	2						
	3						
評価の方法	定期考査での到達度、授業の取り組み方などを総合的に判断して行う。						
講習	特別授業や長期休業中に開講予定						

評価の観点と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組み 課題・提出物の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト

数学演習（理）の学び方

○選択の心構え

この講座は理系大学を志望する生徒のうち数学Ⅲを受験しない生徒を対象としている。大学入試共通テストにおける数学ⅠAおよびⅡBと、数学ⅠAⅡBの範囲の記述式入試問題に対応する力を養成することを目指すものである。1・2年次に学習した内容について、身につけていることを前提として授業は進められるので、2学年3学期終了までに数学ⅠAⅡB全範囲の総復習を終えていることが求められる。週6時間の授業の中で大学入試共通テストと記述式試験の全単元の問題演習を反復して行うので、2学年までにしっかり準備して授業に臨む姿勢が求められる。

また、演習授業全般について言えることであるが、授業における解説を聞いただけでは当然のことながら実際の問題に対応する力はつかない。自宅学習等においては授業時間数の2～3倍の自習時間が必要と考え、定着のために反復学習することが不可欠である。消化不良をおこさないためにそれだけの時間を毎週かけて学習する覚悟が必要である。

○選択の準備

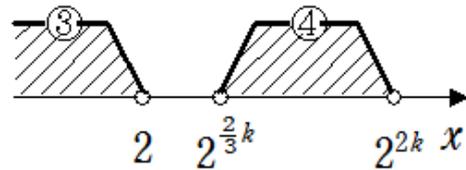
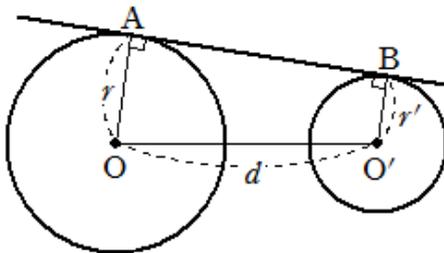
大学入試共通テストと記述式試験の両方に対応する力を、4月から12月までの授業で身につけるためには、基礎事項を授業時間内で毎回復習することはできない。上記の通り2年3学期の終わりまでに数学ⅠAⅡB全範囲の総復習を終えていることが、この講座の受講に当たっては前提となる。3年0学期が終わるまでに総復習を終えるかどうかで、この授業の成果が左右されると言っても過言ではない。初回の授業までにしっかりと準備を整えておいてほしい。

○基礎事項の徹底

1学期の間は、1・2年次に学んだ基本事項の確認を行う。発展的な問題に対応するためには、基礎基本の徹底が求められるからである。

○応用力の養成

2学期からは少しずつ問題のレベルを上げながら、応用力の養成を図る。また定着が不十分な単元についての補習も行う。後半からは入試に即した形式での演習を取り入れ、実力アップを図る。



数学標準演習（文）

学習目標

数学ⅠAⅡBを2次試験の受験科目とする文系生徒を対象として、それに対応できる実力を養成する。

年間授業計画

科目	数学標準演習（文）	履修	必選	学年	3	単位	2単位
講座名	数学標準演習（文）	担当	未定				
学習の目標	1学期中に、1・2年次で学習した内容からテーマの重なるものを単元にとらわれずにまとめて概観する。大学入試共通テストから2次試験まで幅広く応用力を伸ばすことを目標とする。						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間	4 数学Ⅰ	数学ⅠAⅡBの総復習を問題演習の形式で行う 数と式/2次関数/図形と計量/データの分析 場合の数と確率/図形の性質/整数の性質 式と証明/図形と方程式/三角関数/指数関数と対数関数/微分法・積分法 ベクトル/数列					
	5 数学A						
6 数学Ⅱ							
7 数学B							
24	7						
二学期 時間	9 重点項目の復習	特に再学習が必要と思われる弱点分野について、さらに学習を深める。					
	10	実戦形式の問題演習					
	11	弱点分野の補強と、実践力の養成を平行して進めるため、実戦形式で演習を行う。					
28	12						
三学期 時間	1 特別時間割						
	2						
3							
評価の方法	定期考査での到達度、授業の取り組み方などを総合的に判断して行う。						
講習	長期休業中に発展的な演習講座を開講予定						

評価の観点と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。
評価方法	・学習活動への取り組み ・課題・提出物の状況	・定期考査 ・提出物の内容	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・小テスト

数学標準演習（文）学習の進め方

○選択の心構え

この講座は大学入試共通テストにおいて数学ⅠAⅡBを受験する、または一部の難関大学を除いた記述式試験を課される文系大学を志望する生徒を対象としている。1・2年次に学習した内容について、ある程度は身につけていることを前提として授業は進められるので、2学年3学期終了までに数学ⅠAⅡB全範囲の総復習を終えていることが求められる。週1回2時間の授業の中で全単元の問題演習を反復して行うので、しっかり準備して臨む姿勢が求められる。

また、演習授業全般について言えることであるが、授業における解説を聞いただけでは当然のことながら実際の問題に対応する力はつかない。自宅学習等においては授業時間数の2～3倍の自習時間が必要と考え、定着のために反復学習することが不可欠である。消化不良をおこさないためにそれだけの時間を毎週かけて学習する覚悟が必要である。

○選択の準備

大学入試共通テストや標準的な文系大学の記述式試験に対応する力を、4月から12月までの週2時間の授業で身につけるためには、基礎事項を授業時間内で毎回復習することはできない。くどいようだが2年3学期の終わりまでに数学ⅠAⅡB全範囲の総復習を終えていることが、この講座の受講に当たっては前提となる。3年0学期が終わるまでに総復習を終えるかどうかで、この授業の成果が左右されると言っても過言ではない。初回の授業までにしっかりと準備を整えておいてほしい。

○基本事項の徹底

1学期中は、基本事項の確認・理解に力を入れる。基本的な問題を解きながら、重要既習事項について、再点検とその整理を行う。毎時間扱う問題の予習と完璧に解答を再現できるレベルまで復習することが求められる。

○弱点の補強と応用力の養成

2学期は、完成を目指して弱点分野の補強と、実践力の養成を平行して進める。大学入試共通テスト対策問題や実際の記述式入試問題に則した形式で演習を行う。限られた時間内に、正確な答案作成ができる力を身につけることを目標に問題を解き、解説を聞き、反復練習することを繰り返す。

